

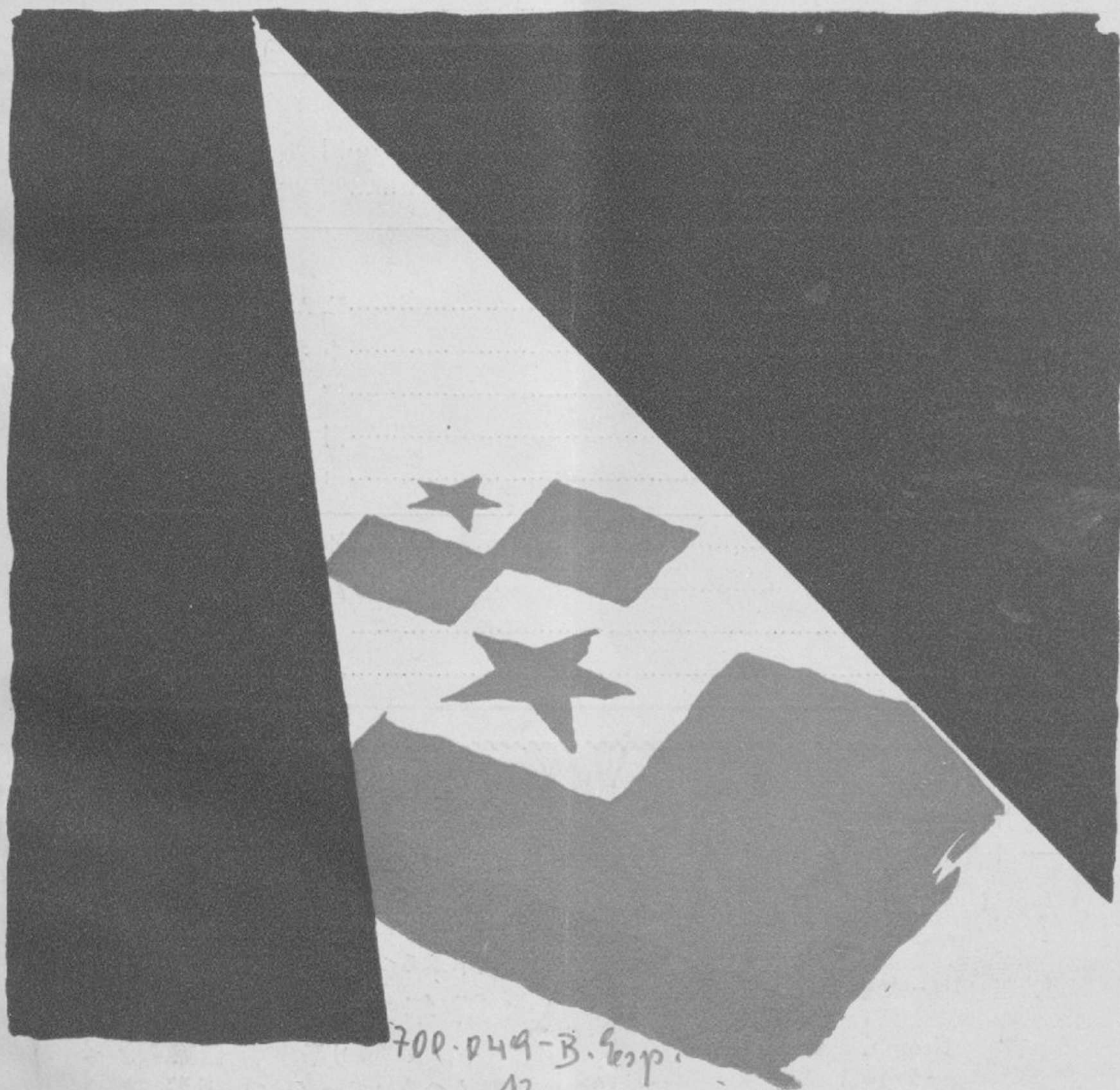
La Revuo Orienta

- 1931 -

JARO XII

N-RO I

JANUARO



700.049-B. esp.
12
1931

Japana Esperanto-Instituto

Ŝin'ogaŭa-maĉi, Uŝigome, Tokio, Japanujo.



目次

初等讀物	小坂 狷二	2
中等講座	岡本 好次	4
和文エス譯研究	伊藤 己酉三	6

Bahaismo とエスベラント	栗飯原 普	8
------------------------	-------	---

質疑應答	小坂 狷二	9
Plena Vortaro に就いて	岡本 好次	12
羊頭の陰	小坂 狷二	14

[エス文]

Letero al S-ro Okamoto	E. A. Sinnotte	15
時事文	小坂・平澤	16
[科學欄] 長い頸と短い頸	露木 清彦	18
活動で逢つた女(澤田撫松作)	南 晶世	19
不自由な人々(片岡鐵兵作)	山 田 弘	22

海外報道	小此木貞次郎	24
内地報道	露木 清彦	26
僕とエスベラント	中大路 淳	32
編集部より		32

★役員會例会★

今後毎月第二火曜に催します、新年は
 — 1月13日午後7時より —

★中等科講習會★

【晝の部】

毎週月曜・木曜…午後1時半—3時
 講師 平澤 義一氏
 用書 Georgo Dandin
 會費 一ヶ月 1圓
 (新年は5日から始めます)

【夜の部】

毎週金曜日…午後7時より
 講師 伊藤 己酉三氏
 用書 Interrompita Kanto
 會費 一ヶ月 50錢

★例会研究會★

毎週水曜日7時より(本月は7日より)
 用書 Fabeloj de Andersen II
 會費 不用

(尙本年から愈小坂狷二先生も毎回出席されます、何卒ふるつて御參會下さい)

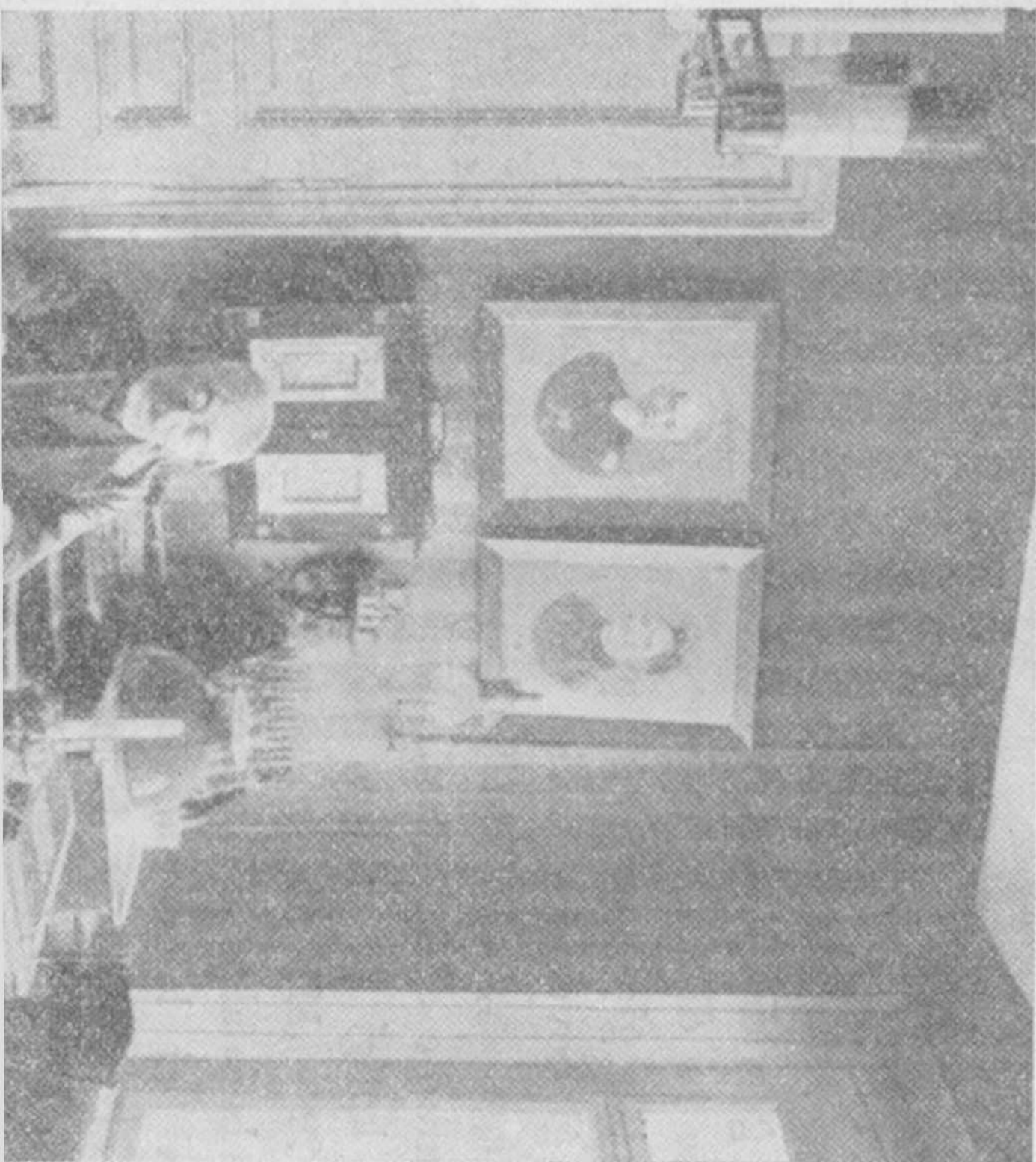
★新年初顔合★

1月3日午後7時より學會で會話練習を兼ねて打ちくつろいて一夕ゆつくり遊びませう。

★會話會★

1月17日(第3土曜)丸ノ内鐵道俱樂部に於て、支那漫遊より歸られた大橋介二郎氏のお話ある筈。 會費 5錢

★ 第十二年 ラ・レヴァオ・オリエンタ 第一號 ★





D-ro I. I. ZAMENHOE
en la skriboĉambro

謹 賀 新 年

財團 日本エスぺラント學會
法人

El Fabeloj de Ezopo

(初等註譯イソップ寓話)

小坂 狷 二

LUPO KAJ ŜAFIDO

Kiam lupo estis trinkanta supre ĉe rivereto, ĝi vidis, ke ŝafido vadas en la fluo ĉe iu distanco malsupre. La lupo decidis ĝin kapti, ĝi pri-pensis, kiel ĝi povus sin pravigi por la perforta ago. „Kanaĵleto!“ diris la lupo, alkurante al la ŝafido, „kiel vi kuraĝas kotigi la akvon, kiun mi trinkas?“ „Mi ja ne scias,“ diris humile la ŝafido, „kiel mi povus malpurigi al vi la akvon, ĉar ĝi fluas de vi al mi, sed ne de mi al vi.“ „Povas esti tiel,“ respondis la lupo, „mi aŭdis, ke antaŭ unu jaro vi mokis min.“ „Ho, ne, sinjoro,“ diris la ŝafido tremante, „antaŭ unu jaro mi ankoraŭ ne estis naskita.“ „Nu, tiam,“ ekkriis la lupo, „se tio ne estis vi, ĝi estis via patro; kaj estas tute egale: neniun argumento povas senigi min de mia vesper-maĝo!“ La lupo tuj disŝiris la kompatindan ŝafidon.

Estas facile ĉiam trovi pretekston, kiam fortulo volas fari al malfortulo ian malbonon.

狼と子羊

狼が小川 (river'eto) の川上で (supre) (水を) 飲んでゐました (estis trink'ant(a) 時に (Kiam)、小羊が程へだたつた (ĉe iu distanco) 下手で(川を) 流れを (en la fluo) 渉つてゐるのを見ました。狼はそ奴をつかまへ様さきめました (decidis) そして此の腕力沙汰の (per'forta) 行ひに對してどう云ふ風に云ひぬけする (sin pravigi) こそが出来ようかとあれこれ考へました (pri'pensis)。『悪者のチビ助め!』と狼は小羊の處へ駆け寄つて (al'kur'ante) 申しました、『よくも貴様はおれの飲んでゐる水を泥にし居つたな (kiel...kuraĝas)』『だつて (ja) 私にはわかりませんわ』と小羊に下手に出て申しました、『どうして私が水をおけがし申し上げられませうか、だつて水はあなたの方から私の方へ流れてゐるので、私の方からあなたの方へ流れてゐるではありませんもの (ĉar)』。『そうかも知れんて』と狼は答へました、『おれは聞いたぞ、一年前に貴様がおれの悪口を云つた (mokis min) とな』『あゝ、どう致しまして、あなた様』とふるへ乍ら (trem'ante) 小羊は云ひました、『一年前には私はまだ (ankoraŭ) 生まれてゐませんでした (ne estis naskita)』『うゝそんなら (tiam)』と狼は叫びました、『もしそれが貴様でなかつたのなら、貴様のおやぢだつたらう、してごつちみち同じぢや、ごんな理屈をこれだつておれの夕食を奪ふことは出来ん』狼はすぐ様かわい想に小羊をすだすだに引きさいてしまひました (dis'ŝiris)。

強者が弱者に何か悪い事を (ion malbonan) しようとする時にはいつでも (ĉiam) 口實を見付けることはわけないのである。

【註】

{ lupo 狼 (英語の wolf は狐)

{ vulpo 狐 ŝafido 羊, ŝaf'ido 小羊

{ super 「前置詞」物からはなれた上の位置、其) の上の方に、(他よりも優越した地位、其) を越して

{ super'i 優越する

{ supera 優越せる、高級の

{ supra (物の) 上部の

{ supro 上部、(山の) 頂

{ supre 上の方に

{ Li staras supre sur la monto. 山の(麓でなく) 上の方(頂) に立つ

{ Li naĝas malsupre sur la rivero. 川の下の方(川下) に游いでゐる

vadi (川など) 歩いてゆく、徒渉 (かちわ



たる

ĉe iu distanco 或る距離へだて、

{Mi intencas iri. 行くつもりです。

{Mi decidis iri. 行くことに決めました。

pensi 考へる、pri'pensi 或事に就てあれ

これを考へる、考慮する、勘考する

{Vi estas prava. あなたのおつしやる通り

です、道理です、御尤も様です。

{Pravigu vin=Montru, kiel vi estas prava.

君の行が尤もださ云ふ證を立てる

{forta 力の強い、forto 力

{per'forte 力づくで、腕力で、無理やりに

perforta ago 力づくの行動、腕力沙汰

Kanajlo 悪漢

{kuraĝo 勇氣、kuraĝa 勇氣のある

{kuraĝi=esti tiel kuraĝa (何々するだけの

勇氣がある、勇敢にも…する、敢て…

する

Kiel vi kuraĝis min bati? よくも貴様お

れをなぐり居つたな (如何になぐるこ

さを平氣でやれたか)

{koto 泥、kot'igi 泥だらけにする、濁す

{pura きれいな、mal'pur'igi よこす

humila 腰のひくい、身をへりくだれる

Povas esti tiel そうかも知れん(そうあり
得る)

{moki 馬鹿にして悪口を云ふ、愚弄する

{insulti 口ぎたなく罵る

{naski (子を)生む

{esti nask'ita 生まれる=nask'igi

disputi 青筋立て、喧嘩口論する、論争。

{diskuti 問題に就て議論を上下する、辯論。

{rezoni 理攻めに道理を立てる、條理、理屈。

{argumenti diskuti するために rezoni に

議論を序べる、論證、議論。

neniu argumento… 如何なる議論(をもつ

て来て)も(それが)…することなし

{Ĉiu homo tion scias. それを知らぬ人は

ない。

{Neniu homo tion scias. それを知つてゐ

る人はない。

Li revenis sen mono. 文なしで(金を持

たずに、金を失して)歸つて来た。

{Drinkado lin sen'igis je (de) la tuta havo.

飲酒で全財産をなくした(飲酒が全財

産から彼をもぎとつた)。

ia malbono=io malbona 何か悪い事

ŜAEIDO KAJ LUPO

Ŝafido, persekutita de lupo, rifuĝis en templo. Ĉe tio la lupo alkriis al ĝi, dirante, ke la pastro ĝin buĉos, se li ĝin kaptos. „Estu tiel,” diris la ŝafido, „estas pli bone esti oferbuĉata, ol esti formanĝata de vi.”

【註】

persekuti 追撃する、迫害する

{rifuĝi 避難す、逃げ込む

{rifuzi 拒絶する、こさわる

{al'krii 叫んで呼びかける

{al'voki 叫びかける

{al'paroli (人に)話しかける

buĉi (獣や人を)屠殺する; buĉisto 屠殺

者、牛殺し。

{oferi 神にささげ物をして祭る、(人の爲

め世のために身や物を)犠牲にする。

{ofer'buĉi 羊などを屠つて神に捧げる。

子羊と狼

狼に追ひつめられた (persekut'ita) 小羊 (ŝaf'ido) がお寺の中に避難しました。それを見て (ĉe tio) 狼は坊様がお前をつかまへたらお前を屠つてしまふぞと云つて (dirante) 言いました。『かまわないよ (Estu tiel)』と小羊は申しました。『お前に喰はれてしまふよりも犠(いけにえ)にされた方がましだよ』と。

Estu tiel! そんな風になるのならそんな

風になるようにさせろ、なるようにな

れ、それでよい。

{for'manĝi (食つてなくす) 食ひつくす、

平げる。

{for'trinki 飲みつくす。

iru for! あつちへ行け、うせろ。

Estas pli bone iri, ol resti tie ĉi. こゝに

のこつてゐるよりも行つた方がましだ。

{Ĉiu plivolas esti laŭdata, ol esti riproĉata.

誰でも文句を云はれるよりも褒められ

る方がすきだ。

エスペラント中等講座

岡本好次

標語：一模範文を精讀玩味し語法及一般表現方法に熟達するを目的とし濫讀多讀を排す。

はしがき：一久し振でこの欄をうけもつことになりました。講義は先年學會の「中等講習」を gvidi した時と大體同じやり方で語法に重點を置いて研究を続けたいと思つてゐますが目下多忙のためこの程度迄自分の主義主張に忠實にやれるか疑問です。悪い點や氣にくわない所がございましたら御遠慮なくごしごし御叱り下さい。書狀又は誌上で御返事致します。研究材料は何でもよいと思ひますが

Zamenhof 博士のものから任意にさつてくる事にします。今回は有名なアンデルセンの「マツチ賣りの娘」(Z 博士譯のアンデルセン全集第二卷から)をさります。このお伽噺は既に Esperanta Biblioteko Internacia の第二卷として F. Skeel-Giörling の譯があります。それでそれと比較して研究をすゝめたいと思ひます。後者は一昔も前に Japano Esperantisto 誌上で小坂先生が御紹介されました。

Knabineto kun Alumetoj¹

Estis² terure malvarme;² neĝo³ faladis,² kaj fariĝis⁴ jam⁴ vespero⁴; tio estis la lasta⁵ vespero en la jaro, vespero de Silvestro.⁶ En⁷ tiu malvarmo kaj en⁷ tiu mallumo sur⁸ la strato⁸ iris⁸ malgranda malriĉa knabino kun nekovrita⁹ kapo kaj nudaj⁹ piedoj. Estas¹⁰ vero¹⁰, ke¹⁰ ŝi havis¹¹ sur¹¹ si¹¹ pantoflojn, kiam ŝi foriris el sia domo; sed¹⁰ tio estis tre grandaj pantofloj, ili antaŭe estis uzataj de ŝia patrino, tiel¹² grandaj¹² ili estis, kaj ilin la knabineto perdis, kiam ŝi rapidis¹³ transkuri¹³ la straton, kiam du kaleŝoj kun furioza rapideco pretergalopis;¹⁴ unu pantoflon oni plu¹⁵ ne povis trovi, kaj kun la alia forkuris iu knabo, kiu promesis, ke li uzos ĝin kiel lulilon, kiam li iam¹⁶ havas infanojn.

【譯】 恐しく寒かつた。雪が吹き續けて既に夕暮になつた。それは年の最後の日であつた——大晦日の晩であつた。その寒いその暗闇の中で帽子もつけない貧しい少女が素足のまゝで街路を歩いてゐました。成程彼女が自宅から出た時には足には草履を穿つてゐたに相違ないんですが併しそれはとても大きな草履でした。その草履は前は彼女のお母さんが使つてゐたのでした、それ程その草履は大きかつたのです。そして彼女が二つの馬車が物すごい速さで走つてきた時大急ぎで通りを横ぎつた時その草履をなくしたのでした。片方の草履は彼女もさうさう見つける事ができませんでした。もう一つの方は一人の男の子が持つて逃げました。その子は他日小供ができ

た時にそれを玩具にするのだと言ひながら逃げました。

【註】 1. F. S.-G. の譯では La knabineto kun la alumetoj と云ふ表題になつてゐます。冠詞 la は話し手にも聞き手にも判つてゐる或る特定の事物を指し示す時に用ひるのがたてまへですがまた一面からみれば冠詞はその名の如く「冠」をつけた即ち禮服を着た様ないかめしい形ですから書物の表題さかお話の題さかに使用することにもなります。例へば Z 博士の譯書中にも La Rabeno de Baĥarah, La Rabistoj, La Revizoro 等冠詞をもつた表題があります。併し燕尾服や大禮服がモーニングで間にあひタキシードで用が足り背廣でも tolerebla となつてきた現代にいかめしい衣冠束帶は時代後れになりました。エスペラントの發表された當時は現代語模倣時代ですからやはり衣冠束帶のシカツメらしい禮式が尊重されましたが Lingvo de Demokratio を標榜する Esperanto に何時迄も束帶でもありませんまい。さういふ様なわけでもありませんか Z 博士の作品も後年のものには冠詞をなるべく省略して氣輕な形になつてきてゐる様に考へます。日刊新聞の記事の見出しが段々 konciza になつてくる傾向の現代にお伽噺の題なんかは必要の程度を無視しても簡略になつてゆくべき筈です。冠詞の使用については Z 博士の “Lingvaj Respondoj” に注意がある通り「必要かどうか判らぬ事は使用せぬ」にこした事はないと思ひます。そしてそれが又 modernigo として歡迎されるに於ては猶更で

す。勿論筆者は冠詞無用論をさくものではありません。冠詞あるがために無用の誤解をさけることができてごんなにか結構だと考へてゐます。しかし必要以上に使用するの煩はしさは forigi したいと思つてゐます。

2. **estis malvarme** 天候氣象等について述べる場合エスペラントでは主語なしに動詞だけで文 (propozicio) を構成するのである。普通歐洲語では所謂非人稱動詞と稱して第三人稱單數の代名詞が用ひられる所のものである。例へば

Pluvas = (angle) It rains = (france) Il pleut.

Negás = (angle) It snows = (germane) Es schneit

等の例にみる如くエス語では唯動詞一つで用がたるのである。Tondras, Fulmas, Hajlas, Ventas 等こういった主語を要せない動詞である。これを「新撰エス和辭典」ではかりに無主動詞と命名して各語の所に記入して置いた。こういった單一の動詞の外にも合成動詞の中にも無主語で文を形成するものがある。例へば **Mateniĝis, Vesperigás, Krepuskiĝos** 等やはり天候氣象に關したのものがある。その外にこゝにある例の如く **esti** が無主動詞として使用される場合が可成澤山ある。この場合 **esti** は主語を要さないが補足の語を必要とする。この場合歐洲語はやはり非人稱な詞動とる

Estas varme = (angle) It is warm

Estas mallume = (angle) It is dark

等として天候氣象に關係したものでこれらは主語と見なすべきものがないから無主語で用ひられるのである。Estas ~e ke…… の如き文については別の機會にのべる。

3. **fal'ad'is** 接尾字 **ad** はこゝでは動作の連續をしめしてゐる。即ち朝からか 晝から或は前日からでもよいが) が雪が降りつゞいてゐる事を示してゐる。**ad** は動作が屢々 **ripeti** される事を示す時もある。En tiu vintro neĝo faladis. Li ŝin vizitadis 等の如きそれでこれは一度 **viziti** してその **viziti** と云ふ動作がズツと繼續してゐる意味ではない。前後の **kunteksto** から考へるべきである。

neĝo faladis は neĝadis としてもよいそうすれば無主語の文となる。

4. **fariĝis jam vespero = jam vesperiĝis**

5. **lasta** 最後の。この語は日本人には六ヶ敷い語である。勿論ヨーロッパ語を知つてゐる人には何でもないが。即ちこの語は或る

時には「最後の」意味から最も今に近い意味で「最近の」と云ふ意味にもなる。例へば **Last'a temp'e** は「最近、近頃」の意である。**last'moda** は「最新式の」意。

6. **Silvestro** 第四世紀に法王であつた人でコンスタンチン帝を改宗させて有名な人。この人に因んで中歐では大晦日の晩を **vespero de Silvestro** と云ふ。

7. **en tiu…… kaj en tiu** その寒さの中をその暗闇の中をの意。

8. **iris sur la strato** 街上を歩むもの故 **sur** を用ふ。

9. **ne'kovr'it'a kapo** 帽子も何も冠らない意故 **ne'kovr'it'a** としたのである。**sen'ĉapa** (**sen'ĉapela**) でもよいわけだが **sen ĉapo** としても何か **tuko** でも **kovrita** されてゐる場合もなきにしもあらずだから、**nekovrit'a** とすればまちがひなく頭をむきだしのまゝ寒風にさらしてゐる事を讀者をして考へしめるに十分だ。**nuda kapo** としてもよい。**nudaj piedoj** は **piedoj** に履物をつけてなければ如何なるものでも覆はれてゐない意味である。故に **nekovritaj piedoj** としてもよいわけである。**nudaj** の方がより **simpla** である。鞄からぬいた拔身の劔は **nuda glavo** と云ふ葉がちつてしまつた木は **nuda arbo** と云ふ。「むきだしの眞實」は **nuda vero** と云ふ。**E. S.-G.** の譯では **kun nuda kapo kaj nudaj piedoj** となつてゐる。上の **Z** 博士の譯は變化を尊んでかくしたものと思ふ。

4. **Estas vero, ke ~ sed ~** この初めの文を解剖すると **estas vero** と云ふ文と **ŝi havis…… pantoflojn** と云ふ文とを **ke** と云ふ接續詞が連結してゐるのであるがこの **estas vero** と云ふ文は主語のない文である。併しながら意味の上からは **ke……** 以下の文が全體として **estas vero** なる文の主語である。

直譯すれば「……は眞實であるが(まちがいない)が併し～」と云ふ意味であるが日本語の調子にあつた様に譯するには「成程……だが併し～」とか「……したには相違ないが併し～」とか譯するとよい。

11. **havi sur si pantoflojn** は **pantoflo** を身につけてゐる即ち **pantoflo** を履いてゐると云ふ意。**havi sur si** の代りに **portis (sur si)** でもよい。すべて衣服その他一切の裝身具をつけてゐる場合には **havi ion sur si** とするか **porti ion (sur si)** とするのが普通である。**porti** の場合は **sur si** が略されてゐても大體着てゐる意味にされるが **havi** の場合

和 文 エ ス 譯 欄

1) 今日は大變寒くて池の水が凍つた。

答案 Hodiaŭ estas tiel malvarme, ke la akvo de la lago glaciĝis.

—— tre malvarme kaj ——さしても悪くはありませんが、寒い感じがそれ程強くでません。Hodiaŭ ni havas tiel malvarman veteron, ke la lago glaciĝis (frostiĝis), さしてもよろしい。

glaciĝi を glaciĝi さした方が可成多く見られました。又 graciĝi さいふのもありました。hodiaŭ は副詞ですから malvarme を副詞にすべきで、形容詞は用ひられません。

2) 彼は金を儲けるために妻をも欺いた。

答案 Li trompis eĉ sian edzinon, por ke li gajnu monon.

簡単に por gajni monon さしてもよろしいが por ke を使つた方が更に強く響きます。この場合金を儲けるとは澤山の金を手に入れるの意味ですから、gajni がよく、profiti は利益を得る、利用するの意味でこの場合の儲けるとは少し違ひます。profiti monon さした方が数人ありましたが、これは寧ろ金を利用するの意味になります。mono 金銭は複數になり得ませんから monojn さする事は誤です。

Li trompiĝis ankaŭ sian edzinon——. さいふのがありましたが、trompi は他動詞で、trompiĝi は欺されるの意味です。又 ankaŭ では妻をも亦、さいふことになります。sian を lian としては自分の妻でなくて他の彼の妻をさいふことになります。

3) 何がそんなに悲しいのか。

答案 Kio tiel malĝojigas vin?

或は Pro kio vi tiel malĝojas? Kio kaŭzas tian malĝojon al vi? もよろしい。

Kio estas tiel malĝoja? は日本文の直譯で何がそんなに悲しんでゐるかさいふ意味になります。これを Kio estas tiel malĝojiga al vi? とすればよろしい。

4) 室の中は急にしんとした。

答案 Subite en la ĉambro ekregis

silento.

Subite silentiĝis en la ĉambro. 或は Subite senbruiĝis en la ĉambro. でもよい場合もありませう。室の中を interne de la ĉambro 又は interne de la ĉambro さする必要はないと思ひます。

Subite la ĉambro trankviliĝis. さいふのがありましたが trankvila は安心な静なの意味ですから室は安心した、の意になります。En la ĉambro kvietiĝis も室の中はおさまつたさいふことになります。

5) 彼は眞さかさまに飛びおりた。

答案 Li malsuprensaltis la kapon antaŭen.

眞さかさまにとは頭が先にさいふことから la kapon antaŭen=kun la kapo antaŭen になります。la kapon malsupre でもよいでせう。renverseさしたのが二三ありましたが、ひつくりかへるやうにさいふことになります。sur sia kapo は逆立をして飛び下りたと解せられます。その他 Vertikale li mem subfaligis sian renversigantan korpon. さいふのがありましたが。

6) 僕は喜ぶどころか悲しみたい位だ。

答案 Anstataŭ ĝoji, mi volus eĉ malĝoji.

或は Mi volus malĝoji ol ĝoji. でもまあよいでせう。大多數の方々は prefare を用ひられました。例へば Mi volas prefare malĝoji ol ĝoji. しかしこれでは喜んで、悲しんでもよいが、何れかさいえば悲しんだ方がよいさいふ意味になり、少し原文とは違ひます。悲しむを lamenti とされた方がありましたが lamenti は悲嘆に暮れるさいふ意味です。

種々雑多の答がありましたが中には Nun mia koro estas plenanta (plenigata とすべき) de tia mizero, kiel mi ne povas ĝoji. のやうな長いものや Mi estas en malĝojo, jam ne parolante pri ĝojo. (即ち喜んでゐることは申すに及ばず悲しんでゐる) のやうなのがありました。

7) 秋もすでに半ば過ぎて冬が近付いた。

答案 La aŭtuno jam duone for-
pasis, kaj la vintro estas proksima.

秋も半ばを duono da aŭtuno とされた方がありましたが da は iu の意味が含まれてゐますから、ある秋の半分になります。これは duono de la aŭtuno とすべきです。

8) お訪ねして御迷惑ではありま
せんか。

答案 Ĉu mia vizito ne ĝenas vin?

Ĉu mi ne ĝenas vin pro mia vizito? Ĉu
mia vizito ne malhelpas al vi? でもよろし
い。

この答は大抵出来てゐました。

9) 彼奴は僕を君と取違へてゐる
に相違ない。

答案 Li devas esti prenanta min
por vi.

A を B と取違へるは preni A por B で
す。これを erari min al vi, intermiksi min
al vi, miskompreni min je vi, ŝanĝigi min al
vi, vidi vin erare anstataŭ min (僕に會ふ代
りに間違つて君に會ふ) 等された方が半数あ
りました。又…してゐるに相違ない、の時を
譯された方は殆んどありませんでした。大部
分は devas-i (即ち、…するに相違ない)又は
devos-i (するに相違なからう)でした。他の
問題にも時に關する誤りや -igi -igi とを
はつきり區別してゐないやうなのが見られま
した。

10) 俺がその犯人だとは誰が言ひ
やがつたんだ。

答案 Kiu kuraĝis diri, ke mi estas
tiu krimulo?

多くは單に diris 又は diraĉis でした。そ
れでもよろしいが kuraĝis diri とした方が更
にしつくりと氣持が出ます。

地方エス會責任者の方へ

最近各地に甦生或ひは勃興したエス運動に
は群雄割據的感あるものを時折見受けますが
之は普及上面白くないと思ひます。各地方責
任者の方は御協議の上合同又は提携されるこ
とをおすすめします。

尙報道にもすい分と亂雜なのがあります、

11) 何だつて君は僕の邪魔をした
いんだ。

答案 Pro kio vi volas malhelpi al
mi?

Pro kio の代りに kial でもよろしい。kiel
とした方が二三ありましたが、何んな方法で
邪魔したいかといふことになります。

12 何でもあるものを食べさせて
下さい。

答案 Donu al mi manĝi, kion ajn
vi havas.

Manĝigu al mi, kion ajn vi havas. でも
誤ではありませんが manĝigu といふ語は耳
によい感を與へません。その他 Donu al mi
manĝaĵon..., Permesu al mi manĝi... の形が
ありましたが皆何處かに缺點がありました。
何でもあるものとは何でもよいが貴方の所
にあるものの意味ですが、それを ĉion, kio
estas. (存在するものを悉く) と直譯された方
が数人ありました。その他 Benvole min
manĝu... (私を食べて下さい)。Aldonu al mi
nespecialan manĝaĵon. (私に特別ではない食
物を附加へて下さい) 等の大きな誤りがあり
ました。

* * * * *

今回の應募者は多くて 34 名ありました。
問題の主な要點を正しく譯しても小さな誤を
する方が澤山あります。主語のないもの、時
を示す動詞のないもの、文法の誤等が相當多
くあります。又書き違ひではないかと思はれ
るものもあります。幾度も讀んで書改めて下さ
い。次號からは自由作文の訂正をいたします。

34 名中 Migranto, 中川年男、高石綱、南
昌世、K. Safrito, Hattori-Tooru, Konvolvulo,
Saito-Hidekatsu の諸氏が好い成績を得られま
した。

御注意下さい。講習會表には受講者数なきも
のは採録しません、詳細に御報下さい。エス
會は會員數及學會々員名も共に報告下さい。
未だ本誌に記入漏れエス會も多少ある様です
御手数でも御一報下さい。

エス語に關する新聞記事など御氣付きの折
は是非御送り下さい。

Bahaismo と エスペラント

栗飯原 晋

59. バハイ教とエス語

19世紀の中葉ペルシアに起つたバハイ教の根本教義12ヶ條の中には國際語の採用が説かれてゐる。このバハイ教を樹立したバハウラーは共通語のことを1862年に著した「アクダスの書」その他に於て言及してゐるが、また「イシュラカトの書」に於ても次の如く云つてゐる。

『第六のイシュラク(光輝)は人々の間の和合と一致である。……そして斯くの如くなる總ての方法の中最上のものは他の人の言葉と書き物の了解である。以前に吾人は「正義の家」の評議員に現在の言葉の一つを選ぶか、若くは新規に一つを創案するかを命じ、また共通の文字を採用し、世界が恰も一國、一家となる様に、世界の凡ゆる學校に於て兒童に是等を教へることを命じた。』

バハウラーの死後、彼を繼いだアブドル・バハは1913年2月パリに開かれ彼の歡迎晩餐會席上述べて曰く。

『今日ヨーロッパに於ける相違の主因の一つは言語の多種多様である。吾人は此の人はドイツ人、その人はイタリー人と云ひ、今英國人に會へば、またフランス人に會ふ。彼等は同じ人種に屬してゐることは雖も、言葉が彼等の間の最大なる障礙となつてゐる。若しも世界的補助語が使用されるならば、彼等は一つであること見做されるであらう。』

バハウラーは此の國際補助語のことに就て四十數年前に記してゐる。彼曰く。『國際語が採用されない限り、世界の各部分の間の完全な合同一致は實現されないであらう。といふのは、誤解が人々の相互協力を妨げ、是等の誤解は、國際補助語を通ずるに非れば、驅逐され得ないだらう。』

『概して云へば、東洋の全人民は西洋に於ける出來事に就て全く知らずにある。西洋人は東洋人と心より相接觸することが出來ない。彼等はその思想を小箱の中に秘められてゐるのである。——國際語こそ、是れを開く合鍵である。若しも吾人が世界語を所有してゐれば、西歐の書は直ちに、容易にその言葉に翻譯される。そして東方人民は、その内容を知るこ

さが出来る。同様に東洋の書籍は西洋の人民の利益のために、その言葉に翻譯される事が出来る。東洋と西洋との一致への進歩の最大の手段は共通語であるだらう。それは全世界を一家にし、人間の進歩のために最も強い刺戟となる。それは人類一致の標準を向上せしむるであらう。それは地球を一つの世界的な國家にするであらう。それは人の子の間に愛を培ふであらう。各人種の間の親善を促進するであらう。』

『今や、ザメンホフ博士がエスペラント語を創案したことは神に感謝すべきことである。それは交通の國際的手段たる力強い要素である。吾人の總ては彼の貴い努力の爲めに感謝すべきである。といふのは此の方法に依て、彼は全同胞に貢獻したからである。その熱心な疲れざる努力と献身とを以て、エスペラントは世界的になるであらう。其故に我々の各人は此の言葉を學ばなければならぬ。そして總ての國民や國家によつて認められ、總ての小學校の課目の一つとなる事を一般が認むる様に出来る丈け早く普及せしめなければならぬ。エスペラントが總ての未來の國際會議や會合の言葉として採用せられることを望む。總ての人々が單に二つの言葉、彼自身の母國語と國際語とを習得することが必要である。その時初めて完全な合同が世界の總ての人々の間に建設せられるであらう。今日各國の人人と通信することが如何に困難であるかを考へよ。若し人が五十の言葉を學ぶならば、一國を旅行し得るかも知れないが、それでもその國の言葉を知らないであらう。其故に、此のエスペラント語が廣く普及せられる様に各人が最上の努力を致さんことを希望する。』

ザメンホフ博士はアブドル・バハに敬意を表して曰く。„La personon de Abdul-Bahakaj lian laboradon mi tre alte estimas: Mi vidas en li unu el la plej grandaj bonfarantoj de la homaro.“ (Star of the West, Vol. 11. No. 18. p. 299)

質 疑 應 答

動 詞 の 分 類 概 説

★接尾字 *ig, iĝ* の用法及びエスペラントの動詞の自他動の區別、其他動詞の分類に就て詳しく説明を乞ふ。[西宮市 M. I. 氏]

【答】 1) エスペラントでは語根に名詞、動詞、形容詞、副詞の區別があり、動詞語根にはまた自づと自動他動の區別があることは本誌一昨年二月號『文法講話』中に述べた。

他動詞語根の例: *mangĝ, leg, mov, tranĉ, ŝanĝ, dir, komenc, fin,*

自動詞語根の例: *sid, star, viv, rid, osced, fal, mort, parol, ĉes.*

語根自身に自他動の區別があるのでは各動詞に就て一々區別を覚えねばならず厄介の様に見えるがそれは當然のことである。Turn' は『廻はる』(自動)の意ではなく、『廻はす』(他動)意であると覚えるのは丁度 Kat' は『犬』ではなく『猫』であると覚えるのと同様變りはなく、當然のことである。

尤も自、他動の區別は Fundamento (Universala Vortaro) の定義によるか、永年の Esperantistaro の使用習慣によつて生じた區別によるべきで、且つ單に表面の形式でなく、本來の意味により區別すべきである。

Mi ridas lian malkuraĝon.

の ridi は目的格の語が伴はれてゐるからと云つて直ちに他動詞と斷じてはいけぬ。意味の上から見れば次の如く前置詞省略の目的格であるから、自動詞であるべきである:

Mi ridas pro (又は je) lia malkuraĝo.

是は丁度次の kuri が la arbaron (=al la arbaro) を伴つてゐても他動詞でないのと同様である:

La besto kuris la arbaron.

{Li diris tion. (他動)

{Li parolis pri tio. (自動詞)

Li diris pri tio と云ふことも云へようがそれは Li diris ion pri tio の意で矢張り他動詞である。之に反し Li parolis tion と云つて悪いとは勿論云へぬ、然しそれは結局 parolis pri tio の前置詞省略である。序乍ら日本人はよく Ĉu vi parolas Esperanton? と云ふ者があるが正格には parolas en Esperanto 又は parolas Esperante である。

{Ĉu li finis mangi? = Ĉu li finis sian mangadon? 食事をすませたか (他動詞)

{Ĉu li ĉesis labori? = Ĉu li ĉesis en laborado? = Ĉu li ĉesigis sian laboradon? 働かなくなつたのか (自動詞)

此の ĉesi は Li sukcesis akiri famon = Li sukcesis en akirado de famo の sukcesis が自動詞であるのと同一般である。

{Ŝi kondukis malfeliĉan vivon.
{Ŝi vivis malfeliĉan vivon.

兩者共『不幸な身の上であつた』意であるが konduki の他動詞たるに反し、第二例の vivi は Ŝi vivis per malfeliĉa vivo の省略で自動詞と解すべきである。是は Mia onklo ne mortis per natura morto (Fund. Krestomatio, p. 16) = mortis naturan morton と同一轍、此の如き目的格は英語では cognate object と稱するがエスペラントから見れば前置詞省略の目的語である。尙序乍ら It rains の It は Rain rains の意だから cognate subject だと云つた人があるが是亦エスペラントでは主語なしで行くのであるからその必要がないわけである。

一體分類なるものは語の esenco ではなく文法家の説明の上の便宜であるから、一方には分類が異論なく明確にきまるものがあるが、他方には遽に決し難い料物もある。Turni, movi が自動詞でなく他動詞であることは何人も異論はあるまい。然るに

a) Mi tranĉas viandon per tranĉilo.

ナイフで肉を切る。

b) La tranĉilo tranĉas bone.

此のナイフはよく切れる。

に於て或文法家は a) の tranĉi は他動詞、b) の tranĉi は自動詞であると主張するであろう。勿論それも便宜的な分類で結構であるが、b) も tranĉas ĉion bone の略と見れば矢張り他動詞であると云へる。

Bati は明かに他動詞でありそうだが次の例を見てはそう直ちに決しられない。

c) La koro forte batis.

d) Kiam la horloĝo batis la naŭan horon ... (Fund. Krestomatio, p. 144).

e) Ĵus batis la naŭa horo.

此等の bati も自動詞的な第二義を生じたものと見做してもよいが、本來の『物を打つ』

(他動)と analoga な意が koncepti される: bati la bruston, bati la sonorilon. 因に d) の batis naŭan horon は Mi batis lin の場合とは異なり、batis la sonorilon je la naŭa horo (anoncante, ke estas la naŭa) なので時計が九時をなぐつたのでないことは勿論。

自他動の區別のつきにくい中性的動詞が存在することは實用上に於ては少しも差支が起らない、それは『前置詞省略の目的格』なる便利至極な法則のあるお蔭である。Ekzercaro (Fund. Krestomatio, p. 10) に Z 博士曰く: Ni povas diri „pardonu al la malamiko“ kaj „pardonu la malamikon“, sed ni devas diri ĉiam „pardonu al la malamiko lian kulpon.“ 是によつて判斷すれば la malamikon は前置詞省略の目的格、然し常に lian kulpon と云はねばならぬと云ふのだから pardonu は他動詞で (且つ verbo de dativeco) である。なほ helpi も helpi ion al iu と云ふのが普通の用法であるから他動詞である:

Dio helpu al mi! (Fund. Krestomatio, p. 20) 南無三寶。

Kion helpas (al ni) nun tro malfruaj plendoj? 後の祭りだ。

Ne helpas (ion) ploro al doloro (Proverbaro, 507) 泣いたさて痛は防げぬ。

然るに obei は普通 obei al iu (省略すれば勿論 obei iun) で自動詞である。Ekzercaro (Fund. Krestomatio, 9) に曰く: Ni povas diri „obei al la patro“ kaj „obei la patron“ (anstataŭ „obei je la patro“).

自動詞には『状態』の動詞と、『動作』の動詞とがある: sidi, stari, kuŝi, vivi, dormi, 等は状態、fali, oscedi, sukcesi 等は動作の動詞である。此の區別は iĝi, ek の用法上必要: sidi 坐つてゐる (状態)、sidiĝi (=eksidi, sin sidigi) 坐る (動作)。

他動詞にはその目的語たるものが personeco (必ずしも生物でなくても) を有する場合と然らざる場合 (例へば verbo de dativeco; 此の dativa frazkonstruo に就てはいづれ別に論ずる機会がある) とが生ずる: liveri ion al iu; provizi iun per io.

有意志動詞と無意志動詞: rigardi (al io), aŭskulti (al iu), provi, sin mortigi は有意志動詞 (自分がそうしようと思へば出来る動作) で、vidi (ion) aŭdi (ion) 等感覺の動詞、ĝoji 等感情の動詞、sukcesi, morti などは無意志動詞 (自分の意志のまゝならぬ動作) である。例へば物を見ようと思つてその方へ視線を向

ける (rigardi) のは意のまゝに出来るか、もしその物が他の物の蔭にかくれてゐれば見たいと思つても見る (vidi) ことは出来ぬ。此の有意志無意志は英語では動詞活用の根本をなすもので shall と will の使ひ分けなどに肝要なこと: I will try, I will kill myself とは云へるが I will succeed, I will die とは云へぬ、I shall succeed, I shall die と云はねばならぬ。然し Esp. ではそんな區別は肝要でない。例へば morti は自然に死ぬ無意志の意味が主だが、sin mortigi 程でなくとも自ら有意志で死ぬ意味に使はれることもある:

Morti pro la patrujo estas agrable. (Fund. Krestomatio, 5) 祖國のために死する (祖國ゆゑに pro 死す——原因——無意志) は愉快だ。

Kaj tiam mi perdus eĉ tiun solan meriton, ke mi propravole mortis por ĝi (La Rabistoj, 144). そんな事になれば私がわざわざその目的で死んだ (por 目的 有意志) のだと云ふ折角の功德がなくなつてしまふ。

即ち morti には por, pro の何れを用ひてもよい、單に por, pro によつて有意志 (目的) と無意志 (原因) との意味合のちがひが附け加へられるだけで、英語のように動詞の如何によつて kateni されぬ。

動詞にはなほ主語なくして用ひられる無主格動詞がある (neŭtra konstruo): pluvi, neĝi, tondri 等の動詞などがこれである。

動作の動詞中には瞬間の動作を表はす場合と、連續性の動作を表はすものがある。後者は状態の動作に比すべきもので、adi を附けて示される: bati (ボカツと) なく、bata-di (ボカボカと) なく (りつとけ) る。前者は ek- を接頭して作る: kribi 叫んでゐる、ekkribi (今迄だまつてゐたのが) 叫聲をあげる。Eksidi は状態 sidi を始める、即ち瞬間的動作: 『(今迄立つてゐたのが) 『坐る』。依て sidi と云ふ状態になる (なる) sidiĝi と同意義になる。又『習慣』は動作を繰り返すことであるから -adi が用ひられる: Li venadis al mi. よく僕の家へやつて來たものだ (英語の used to come に當る)。一體此の ek-, -adi は丁度スラヴ語の odnokratnij vid (unufoja vido) と munogokratnij vid (multefoja vido) に當るもので、従つてスラヴ人の書く 에스ベラントには時に甚しく亂用せられてゐることがある。

II. -ig- の用法

(1) 動詞以外の語根に附して『(何々)にする』意となす: bel(a)→beligi (=igi ion bela); rajt(o)→rajt(o'hav)a→rajtigi=igi iun rajt(o'hav)a; edzin(o)→edzinigi=igi iun edzino.

[比較] 『…を以て或事をする』(他動詞)はその名詞を直ちに動詞に活用する: kanon(o)→kanoni 砲撃する (=agi per kanono), ombr(o)→ombri 影をつける (=kovri per ombro). [なほ -umi と比較せよ]

(2) 自動詞語根に附すれば他動詞となる: mort(i)→mortigi 殺す。

(3) 他動詞語根に附すれば『(何をして)何々せしめる』意: rimarkigi iun aŭ ion=igi iun rimarki aŭ igi ion (esti) rimarkata. 認めしめる。

III) -igi の用法

(1) 動詞以外の語根に附して『何々になる』意を作る: bel(a)→beligi=igi bela; subakviĝi 沈む=igi subakva, sub akvo; edziniĝi=igi edzino.

(2) 他動詞語根について自動詞を作る: turni まわす、turniĝi まわる=igi turnata=sin turni; etendi のびす、etendiĝi のびる=igi etendita=sin etendi; naski 生む、naskiĝi 生まれる=esti naskita; teniĝi 態度をさる=sin teni; troviĝi 在る、見出さるゝ=esti trovata=sin trovi; enŝoviĝi はいり込む=esti enŝovita=sin enŝovi. 即ち -igi=esti -ata (と受身の意が含まれて居り、又)=sin -i (と再歸動詞と一致する)。是は獨逸語の sich …, 佛語の se …, 又はロシア語の再歸動詞の語尾 -sja, -sj (=sevja) と同じである。例:

Koniĝas (=Estas konata) birdo laŭ flugo kaj homo laŭ ago. 鳥はその飛び方で何鳥だかわかり人はその行爲で人となり知れる。

La haroj streĉiĝis. 身の毛がよだつた。

Leviĝis vento. 風が起つた。

Tio, unu fojon perdita, neniam plu reakiriĝus (=estus reakirata). 一度失つたが最後二度と手に入らぬ。

Ŝi ĵetiĝis en brakseĝon=Ŝi sin ĵetis en brakseĝon. ドシンと肘掛椅子へ腰をかけた。

Li insultas kaj batiĝas. (=sin batas) 彼は悪たれてあばれた。

又 sin -i reciproke=-i unu la alian (お互に……し合ふ) であるから:

Milo da samideanoj premiĝis tie=sin premis reciproke=premis unu la alian. 一千の同志が押し合ひへし合つた。

是より觀れば kompreniĝado (『お互に』理解し合ふこと)に iĝ が入つてゐるわけや、iom-post-ioma ellaboriĝado (段々と完成『され』てゆくこと)は esti ellaborata なる受身態の名詞化たるこそが了解される筈。

(3) 状態の自動詞に附ければその状態になる、即ちその状態へ移る『動作』の自動詞となる: si i 坐つてゐる(状態)、sidiĝi 坐る(動作)=sin sidiĝi=eksidi.

(4) 動作の自動詞に附して自然の結果そう云ふことになつた意に用ひられることは Ekzercaro (Fund. Krestomatio, 16) にある:

Mia onklo ne mortis per natura morto, sed li tamen ne mortigis sin mem kaj ankaŭ estis mortigita de neniŭ; unu tagon, promenante apud la reloj de fervojo, li falis sub la radojn de veturanta vagonaro kaj mortiĝis.

『私の叔父は尋常の死に方をしませんでした、と云つても自殺したのでもなければ、誰にも殺されたわけでもない; 或日鐵道線路のそばを歩いてゐて走つてゐる列車の轍の下に倒れ死ぬようなことになつたのです』。

是は謂はゞ客觀的には iĝis mortigita (英語なら was killed としか云へぬ處)、主觀的には iĝis morti=igis sin morti.

[注意] (1) 他の語根を動詞に活用する場合は上述の如く多く他動詞になるが時に状態の自動詞となるものもある: sata→sati 満腹である(状態) [satiĝi 満腹する(動作)], kuraĝa→kuraĝi 敢て何々する(と云ふ『動作』の)ように聞えるが Li kuraĝis min bati=Li estis tiel kuraĝa min bati で矢張状態。更に動作の自動詞として用ひられることは特殊な場合(諺や詩やわざと滑稽的に云ふ場合など)が多い。Hundo bojas, homo vojas (=marŝas). 又 La floro estas bela を La floro belas と云はぬのは -as 自身に別に est- の意は含まれてゐないからである。

[注意] (2) 自動詞: 場所を示す前置詞を接頭したもののは前置詞を省略して他動詞の如く用ひられること多し: travojaĝi la landon =travojaĝi tra la lando (本誌昨年二月號『文法講話』參照)。

PLENA VORTARO について

岡 本 好 次

先般 Sennacieca Asocio Tutmonda から “Plena Vortaro de Esperanto” が発行された事は本誌新刊紹介欄で先刻御承知の事ではあるが、その後いろいろの人からその内容について少し詳細な問合せをされる方があるので通覧後の感想をのべる事にした。

同書は Esperantista Akademio の Komuna Vortaro の部長たる E. Grosjean-Maupin と Lingva Komitato の委員である A. Esselin, J. Waringhien, S. Grenkamp-Kornfeld の四氏の協力労作によつて編纂されたものであるがその中で前の三氏が oficialaj vortoj 全部と普通の neoficialaj vortoj について共力したもので専門語中で特に寫眞術、數學、工學、機械學、ラヂオ、電氣、商業、經濟、化學、物理、學社會學、マルクシズモ、史的唯物論については専ら Grenkamp 氏が全責任をもつてやつたものである。

全體で菊版 XV+517 頁の大冊であるがこれを通覧して氣付いた諸點をこゝにのべて見よう。

1. Grenkamp 氏の序言によれば植字中豫定の頁數を遙かに超過しそうになつたので既に植字済のものも teknikaj vortoj はこれを取除いたので前と後に精粗繁閑よろしきを得てゐないとのべてゐるがこの點は誰しも氣付く事で本辭典が早くから豫約募集をしたため經費の上で多大の拘束をうけその爲めこんな結果になつた事は辭典出版者も最も注意すべき點であると思ふ。その結果 Grenkamp 氏が plendi してゐる様に龍頭蛇尾の形になつてしまつてゐるのが最も遺憾千萬である。原稿がましまらないでこゝになつたのならやむを得ないが原稿が十二分にそろひながら經費の問題だけでこんな結末をみたのはかへすがへすもおしい事だ。今次に新撰エス和辭典と比較してその語根の數をしらべてみるこゝ（一部分だけ）。

	新撰 Plena 辭典 Vort.	新撰辭典 に存在し て P. V. にない語 根數	P. V. にあ つて新撰 辭典にな い語根數
A で始ま る語根	819	630	236
L で始ま る語根	313	252	94
			47
			33

Z で始ま る語根	40	17	23	0
--------------	----	----	----	---

上の表をみても判る様に終り程語根數が少い。A から E, F 位までがよほど語根が豊富であるが L, M 邊から後は専門語が目だつて少くなつてゐる。併しこれは經費の不足でやむを得ない事であるが第一版が豫期以上の好成績で賣れた時に Suplemento の貌でも削つた語根を復活してほしいものである。

2. 上の缺點はあるが oficialaj vortoj についての説明の部は實にかゆい所へ手をこくほど到れり盡せりて特に或種の前置詞その他助辭や接頭字接尾字については一頁乃至二頁に亘つて澤山の用例をあげて説明してゐる點は大變にありがたい。特に ig と iĝ については各三頁に亘つてのべてゐる。一般の人々は辭書と云ふものについては唯語數の豊富のみを目標にして語數さへ多くあれば譯語が不正確でも説明が不親切でも良辭典だと思ひ語數が少いさぞんなにいゝ辭典でも見むきもしないと云ふ事は甚だなさない事である。本辭典は語根の數が左程豊富ではないが普通我々が日常使用するに當つて屢々その用ひ方について調べる必要が生じた場合に役にたつ辭典として坐右から手離す事のできない良辭典である。Kabe の “Vortaro de Esperanto” は各語根の difinoj の konciza で sciencema である點に於て多大の特色があり Plena Vortaro 出現の後も依然としてその價值を失ふ事はないがその語根の用例が少く又合成語について何等 difinoj のを示してゐないが本辭典はありふれた合成語（數は思つた程多くはないが）についてはその difinoj を示し又用例をも示してゐる。この用例が頗る豊富な點はこれまで發行された如何なるエス語辭典の何れよりも遙かにすぐれてゐるもので、この點からみて筆者は如何なるエスペランティストも必ず本辭典一本を机上備にへられん事をすすめてやまぬ次第である。從來用例の豊富な點で Millidge のエス英辭典は相當各國で調法がられたものであるが本辭典の用例は遙かに多い。

ついでに辭書の使用といふ事について少しく卑見をのべてみたい。大抵英獨佛語を學ぶ人々について考へてみるのに誰でも辭書は買

ふが辭書の内容といふ事については十分考察しないでたゞ値段次第で買つたり見掛けの立派なのを買つたりするが、もつと眼を働かして買ふ様にしていたゞきたいと思ふ。それから又辭書は何でも唯一冊ざりですまそうとする人も多いが夫々特色があるものだからその特色を十分のみこんでその用途にしたがつて數冊机上に備へられる事をおすゝめしたい。

エスペラントの辭典でも *Komercantoj* 用及携帶用としては新撰辭典や *Edinburgh* 辭典を用ひ宣傳用には *Ŝlosilo* を用ひ語根の適確な定義を研究するには *Kabe* の *Vortaro* の如きを用ひ各語の用例については本辭典や *Millidge* の辭典の如きを使用する様にするのが(學會發行「エス文例集」もその方面の役にたつものとして一般から大變歡迎されてゐる——同書は今回改版に際し1圓に値下げされたから今後は舊に倍して一層活用される事と思ふ)望ましい事である。その外専門方面の術語の研究には各方面の専門語辭典(エス語にはこの方面の辭典がまだあまり多くないのは遺憾であるが)を用ひるゝ云ふ風になつてこなければならぬ。

辭書は語學研究上の最も必要なもので大和武士にまつての日本刀であり、汽船にまつての羅針盤の様なものであるからこれらの選擇をゾンザイにしてゐては本當に語學の熟達は不可能である。

3. 本 *Plena Vortaro* について云ふべき最も重大な點は上述の二點であるが次に二三氣付いた誤植其他について述べて本項を終りたいと思ふ。

a) 各語根の *difino* について *Kabe* の *Vortaro de Esp.* と比較してみると或るものでは却つて一層まづい説明がついてゐて遺憾に思ふものもちよいちよい見うけられる。

b) 次の *difinoj* は誤植であらう。

Centigramo Centono da gramo

Centilitro Centono da litro

Centimo Centono da franko

Centimentro Centono da metro

(以上は *Kabe* によるゝすべて *de* となつてゐる。本辭典でも他の語では *de* となつてゐる。例へば

Miligramo Mi ono de gramo

Milimetro Milono de metro, dekonon de centimetro

Cendo Monero, centono de dolaro, de guldeno.)

c) どんな辭典でもその構成その他につい

ての注意書(凡例)があるのに本辭典にはそれがないのが物足りない、又編纂上語根の選擇の標準等についての意見等も知りたいがこれについて何等言及してゐない事も物淋しい。

4. 最後に本辭典にでゝゐるが新撰エス和辭典中にでゝゐない語根(これについては既に調査済であるが他日新撰辭典増補として發表の機會がある事と思ふが)の大部分は専門語でその形は *internacia* な *formo* をもつてゐるもの故英獨佛いづれかの辭書で調べる事ができるものが多いし、一般の讀書上大して必要でない語でもあるが我々の日常よんでゐるエス雜誌等にでゝくる語で本辭典に存在してゐるが新撰辭典にないものを次に(譯語と共に)掲げて本項を終はる事にする。

agnoski (認知す、認む)、*ajura* (透^透)細工の)、*akumuli* (蓄積す)、*alternatoro* (交流發電機)、*apaĉo* (都市の無賴漢)、*arbedo* (灌木、*aŭdaci* (敢えて爲す)、*aŭtobuso* (乗合自動車)、*avenuo* (大通り)、*bakanalo* (酒神祭、亂飲亂舞)、*bankedo* (宴會)、*boĝis* (ボギー)、*cizeli* (*marteleto* で彫刻す)、*ĉarto* (憲章)、*diserti* (論文呈出)、*dumpingo* (ダンピング)、*ekslibriso* (蔵書票)、*elito* (精銳、俊秀)、*fonemo* (フォニーム)、*frajtui* (送荷、*golo* (ゴール[遊])、*grego* (家畜の群)、*ĝazbando* (ジャズ)、*heĝo* (生垣)、*hidro(aero)plano* (水上機)、*hingō* (蝶番)、*humuro* (ユーモア)、*incidento* (屬發事件)、*inici* (奥義を授く)、*integra* (完全無缺)、*iredenta* (民族自決の)、*jahurto* (ヨーグルト)、*ĵamboreo* (ジャンボリー)、*koĉero* (御者)、*koncipi* (妊娠す)、*kontramarko* (合札)、*koooperativo* (協力組合)、*kromofotografio* (天然色寫眞術)、*kurento* (電流)、*lokaŭto* (ロツクアウト)、*maĉo* (マツチ[遊])、*maltusianismo* (マスサス主義者)、*megafono* (メガホン)、*milico* (民軍)、*ministrierio* (省)、*motociklo* (自働自転車)、*obstaklo* (妨害)、*omaĝo* (献上物)、*oracio* (朗讀演説)、*orlo* (縫縁^縫)、*perpleksa* (當惑せる)、*plaĝo* (砂濱)、*provianto* (糧食)、*publici* (雜誌に書く)、*pudoro* (性的羞恥)、*rukuli* (クークーなく[鳩])、*sanatorio* (サナトリウム)、*selekti* (淘汰す)、*skadrono* (= *eskadrono*)、*snufi* (鼻へ吹込む)、*starti* (スタートをきる)、*strando* (= *plaĝo*)、*strebi* (勵む、努む)、*striktas* (恰度の、キツカリした)、*svelta* (瘠形の)、*ŝika* (シークな)、*ŝofero*、*ŝoforo* (共に自動車運轉手)、*ŝrumpi* (萎縮す、つぼむ)、*teamo* (チーム[遊])、*tembro* (音色)、*tempesto* (= *ŝtormo*)、*teniso* (テニス)、*tildo* (〜)、*treti* (足で踏む)、*trubaduaŭo* (トルバドール)、*tundro* (ツンドラ)、*ululi* (鳴く[梟])、*uzukapi* (時効收得)、*vato* (ワット[電])、*veldi* (鎔接す)、*vitrilo* (焼繪ガラス)、*vitrino* (陳列ガラス箱)。(完)

羊 頭 の 陰

小 坂 狷 二

◎羊の話は十二年前の *Japana Esperanto* の正月號にも書いたが今一度狗肉をひさぐ。

◎古代の中史アジアや歐洲の民は牧畜者であつたので聖書や古史には羊が盛んに引き合ひに出る。Pastro (牧師) は人民を羊になぞらへたもので本來は *paŝtisto* (羊牧者) の意、又王者の民を御するも牧羊に例へられ、新約聖書馬太傳 II, 6 にも *el vi venos reganto, kiu paŝtos mian popolon* とある。自動車の運轉手 *sofero* (*veturigisto*) も亦 *ŝafisto* の轉の *kondukisto* の意から出たもの。

◎古代の宗教では神への *buĉofero* として羊や山羊、牛などを *buĉi* して捧げたり、*brulofero* として *ŝaffemuro* (羊腿肉) を焼いたりして祭つた習慣がある。(Hekatombo は *cent brutoj* の生犠牲のことである)。

◎*Ŝafo*, *ŝafido* は『おこなし』者の形容に用ひられるが、親類の *kapro* (山羊) は『強情張り』の代名詞である。

◎『羊皮紙』*pergamento* (中世紀に物を書くために用ひた *ŝaĉelo*)、『羊膜』*amnio*, 『羊齒(しだ)』*filiko*, 『羊羹』は *dolĉo fabpasta* などと譯したら如何。羊入の文句を翻譯すれば：羊腸なる山徑 *serpentumanta (zigzaga) montovojeto*。

羊頭狗肉 *Ŝafan kapon elpendas, kaj viandon hnnndan vendas*。

羊を驅つて狼に向ふ *Peli ŝafan trupon por ataki lupon*。

屠所に就く羊の如し *Nevolonte kiel ŝafo tirata al buĉejo*。

Esti trenata al la sorto, kiel buĉota ŝafo al la morto。

羊質虎皮 *ŝaf' nenobela en tigra felo*。

亡羊の歎 *Viv' mallonga, arto longa* (ラテン語の諺 *Vita brevis, ars longa* を借用)。

◎Proverbaro Esperanta から：

Oni tondas ŝafinojn, tremas la ŝafoj。本人が痛い目にあはずともはたでやられれば身にこたへる意。*tondi* 毛を刈る。

De ŝafo senlana eĉ lanero taŭgas。毛のない羊からは一さかけの羊毛でも間に合ふ(結構)。枯木も山のにぎはひ。

Gardatan ŝafon eĉ lupo timas。守られてゐる羊は狼さへも恐れる。(要心には禍もつけ

こめない)。

Por ŝafon formangi lupo trovos pretekston。

何か企まうとすれば口實は何さでもつけられるもの(別項イソツブ寓話参照)。

Unu fava ŝafo tutan ŝafaron infektas。癖の出来た羊が一匹居れば全羊群にうつる、一悪人が全社會を悪化す。

Pereis ŝafino, pereu ankaŭ la ŝafido。こうなつてはもうやけだの意。

Por ŝafo tondita Dio venton moderigas。毛を刈られた羊には神は風も和らげてふかせる(苦しむ者は天も亦憐む)。

Pagos lupo por la ŝafo。狼は食つた羊に對して必ず支拂ふ時あらん、悪事は必ず報ひあり。

Se vi faros vin ŝafo, la lupoj vin mangos。身を羊にすれば狼に食はれる、あまり身を卑屈にする人馬鹿にされる。

Estas ŝafoj, estas lano。今日羊である者は羊毛さなるが運命運、命免かれ難し。

Se lupo ekpentis, ŝafo atentu。狼が心を入れかへましたなど云つたら羊は御用心御用心(悪人の猫撫聲はこわい)。

Ke la lup' estu sata, kaj la ŝaf' netuŝata。狼も満腹羊も安全(手をふれられぬ)と云ふ様に(あちら立てればこちらが立たぬ、兩方よいようにするのは中々むづかしいがの意)。

Ŝafo kalkulito ne estas savita。何匹と數へて置いたさて羊が狼害がら救はれるわけではない、氣済ましは要心にはならぬ。

Pastro ŝafon ne prenas, ĝi hejmen revenas。坊様が羊はいらぬとおつしやるならさつさと家へ歸ります、御遠慮召さるなら遠慮なく引つこめ申さう。

Ŝafo donas sian lanon, por ke mastro havu panon。主人が糧を得るために羊は毛を提供するのだ(強い者勝ち弱い者損、一將功成つて萬骨枯る)。

De malbona ŝafo estas bona eĉ tufo。悪い羊からは一房の毛でも結構、腐つても鯛。*tufo* 一さ房の毛、一さ校の草。

Ŝafaro harmonia lupon ne timas。和協一致せる羊群は狼を恐れず、協力すれば大敵と雖も恐るゝに足らず。

Neforgesebla Japanujo

Al Estimata S-ro Okamoto,

Kara samideano,

Ĉu vi memoras, ke vi venis akompanate de S-roj Aibara kaj Hirasaua bonvenigi min en Tokio? Ankaŭ kiel afable vi kondukis min al la domo de F-ino Casey? Mi neniam forgesos!

Post kelke da monatoj miaj sentoj kaj rememoroj de "Nippon" kaj la amataj gerenkontitoj tie, estas tiel entuziasmaj kaj sinceraj kiel ili estis tiam, kiam mi estis inter vi ĉiuj.

Verdire ju pli mi pensas al ĉiuj vi kaj paroladas pri vi, des pli fortaj fariĝas miaj kortuŝeco, dankeco kaj amikeco al tiuj, kiuj faris por mi tiel ĝojan, interesplenan tempon. Oftaj miaj pensoj flugas al la belaj Sanktejoj. Ŝtonaj lanternoj, Torioj, ideografaj signoj ĉe butikoj, teatraj stratoj kaj la pitoreskaj aŭ majestaj pejzaĝoj! Tamen ankoraŭ pli ofte la pensoj flugas al la gesamideanoj kaj eĉ al aliaj enlanduloj kun kiuj mi faris negocon aŭ estis ĉarme servitaj en la hoteloj.

Ĉin impresoj dum mia restado en via lando estas plaĉaj, sed la plej agrablaj kaj neforgeseblaj estas tiuj faritaj per la geesperantistoj kun kiuj mi konatiĝis. Per Esperanto mi fariĝis kvazaŭ unu el vi; vi kvazaŭ enkorrigis min kaj jam ne mi estis fremdulino, turistino.

Benata estu la kara, amikiga lingvo!

Benata estu ĉiam la nomo de nia majstro Zamenhof!

Zamenhof, la elpensinto de tia lingvo, kiu povas tiel rapide sed profunde konatigi kaj simpatie altiri la homojn el diversaj nacioj. montrante, ke la koro en ĉiuj batas tiel same en ĉiuj homoj, en ĉiuj nacioj. La diferencoj estas tiel malmultaj la similaĵoj tiel multaj! Ni devus pli ofte renkonti unu la aliaj per la komuna lingvo kaj interkompreni nin.

Mia sola bedaŭro estas, ke mi ne povis resti pli longe en Nippon. Tamen lasinte grandan parton de mia koro tie, mi revenos, se mi vivos, akompanate de kara amikino, por resti kelke da monatoj.

Estas tiom multe por vidi kaj lerni en via lando. Fine, antaŭ tri semajnoj mi sukcesis aĉeti en Melbourne unu el la verkoj de via lerta verkisto kaj sindona Kristsimila S-ro Tojohiko Kagaŭa "Love the law of life." Mi pruntedonis ĝin al gesamideanoj miaj dum tri semajnoj, kaj mi promesis prunti ĝin al multaj, ĉar nur ĉirkaŭ dudek ekzempleroj el la libro estis aĉeteblaj en Melbourne, tamen aliaj estas menditaj. Mi ankaŭ mendis per nia amiko en Kioto S-ro Nakahara ankoraŭ unu libron de Kagaŭa. Ĉar verŝajne li ne sukcesis havigi ĝin ankoraŭ, mi mendis ĝin kaj aliajn pere de loka bibliotekisto. Malspacience mi atendas ilin. Se ankoraŭ unu venos el Japanujo tiom pli bone ĉar tiuokaze mi povos donaci ĝin al iu kiel kristnaskajn donacojn. Do, mi ankoraŭ esperas ricevi de S-ro Nakahara!

Mi ankaŭ volas aĉeti kiujn ajn aliajn verkojn de Kagaŭa kaj de lia lerta, bona edzino. Ĉu estus eble ankaŭ ricevi fotografaĵojn de li kaj la edzino? Mi volonte pagus, ĉar per tio, mi kredas, li gajnas iom da mono por helpi siajn malriĉajn helpatojn.

Ĝis nun mi paroladis pri mia mallonga tempo en Nippon ne nur ĉiun tagon private kun diversaj amikinoj sed ankaŭ tre interesis la membrojn de sinjorina lego-rendo kaj unu el niaj grupoj esperantaj en Melbourne.

En la proksima brodkasta parolado de S-ro Rowson espereble faros bonan anoncon por Esperanto kaj Niponanoj ĉar li brodkastos pri miaj spertoj en via lando per Esperanto.

Ĉi tie kaj tie mi plifortigis aŭ komencigis intereson kaj studadon en Esperanto parolante pri vi en Nippon, kaj via bela lando.

Nu, mi devas fini ĉi tiun longon leteron, esperante, ke vi salutos por mi, al ĉiuj, kiuj memoras min, akceptante por vi mem ĉiujn miajn plej bonajn dezirojn.

Via sincere

E. Alleyne Sinnotte

EL NUNTEMPA KRONIKO

KONFLIKTO TRAMISTA

FINIĜIS KONTENTIGE

Kontraŭ la duaj postuloj prezentitaj la 22-an (de Decembro) de la Komunikista kaj Elektrista Laborunioj la urbestro de Tokio, kiu deklaris senpartian rekomencon de la kontrakto, denove faris cedon en kvar punktoj kaj promesis, ke ĝi zorge prikonsideros la aliajn punktojn, sed ĉar la cirkonstancoj ankoraŭ ne antaŭvidigis ian favoran rezultaton, S-ro Kobajasi, Ĉefsekretario de la Metropola Policoficejo alvokis al la oficejo la kondukantaron de la strikontaj unioj por ilin admoni. La kondukantaro tamen esprimis sian dubon pri la "zorga konsidero" de la

urbestro; la ĉefsekretario do invitis ankaŭ S-ron Motari, direktoron de la Elektra Departamento de la Urbo kaj lasis antaŭ si la du partiojn interesanĝi opiniojn. Rezulte al tio la kondukantaro, kiu venis al la plena kompreno pri la sincereco de la urbestro, fine esprimis sian konsenton. De 23.45 la kondukantaro siavice kunvokis la centran komitaton pri la striko en la oficejo de la unio, kaj post la diskutado je 1.40 matene la 23-an oni decidis doni finon al la konflikto, kiu daŭris 18 tagojn post la prezentado de la unuaj postuloj. (Trad. K. O.)

6,000 DOMOJ DETRUITAJ

DENOVE TERTREMO EN TAINAN

Pli ol 20 personoj grave vunditaj kaj 6,000 domoj estas detruitaj okaze de la granda tertremo, kiu minacis la sudan parton de Formo o Dec. 8. Terura terglitiĝo okazinta je intertempoj de 20 aŭ 30 minutoj pli kaj pli grandigis la tertremon.

La tremo, komencanta je la 7.52 a. t. estis

ripetataj je la 8.08 kaj 8.30. La tremo okazinta je la 8.08 donis la plej grandan ruinigon. Matene 17 tremoj estis sentitaj.

Malbeninda pluvo sekvis la tremegon kaj la loĝantoj penas trovi rifugejon.

La suker-fabriko en Ensuiko devis ĉesigi la fabrikadon dum tri tagoj. (Trad. J. H.)

TOKAIDO-LINIO NE FUNKCIIS 7 HOROJN

El ŝarĝvagonaro kun 64 vagonoj el Ŝimono-seki al Tokio 8 vagonoj dereliĝis kaj renversigis tuj post la trapaso de Ooiso stacio kaj pro tio ambaŭ linioj de Tokaido Centra

Linio ĉesigis trafikon je 7 horoj. La kaŭzo estas, ke vagonaro dereliĝis ĉe komutilo. Ĉiuj stacioj proksimaj al la loko havis grandan konfuzigon. (Trad. J. H.)

【市電爭議圓滿に解決】 postuloj 要求。Komunikista kaj Elektrista Laborunioj 交通及電氣勞働兩組合。urbestro 市當局。deklaris senpartian... 一たん白紙たかへること(協約の公平な再開)を公言した。fari cedon 讓歩した。punktoj 條項。ne antaŭvidigis... (形勢は)俄に豫斷を許さぬ。Ĉef-

sekretario de la Metropola (= Ĉefurba) Policoficejo 警視廳官房主事。kondukantaro 主腦部。zorga konsidero 深甚な考慮。rezulte al tio 其の結果。venis al... 諒解するに至り。doni finon 打ち切る。

【六千戸破壊、又もや臺南の地震】 grave vunditaj 重傷。ter'tremo 地震。minacis 脅

SINMORTIGO TROMULTIĜAS

EVIDENTE MONTRAS LA VIVMALFACILECON

La fino de jaro, kiel kutime ĝin ilustras la tragedio de vivmalfacileco.

Statistiko de sinmortigoj en Tokio farita de Metropola Policoficejo montras la plej mirindan ciferon, kian neniam vidis en tiuj ĉi dek jaroj. Nombro de sinmortigintoj de la komenco de 1930 ĝis la fino de lasta novembro estis 1,635 t. e. en unu monato 149, ĉiutage ni vidas 5 sinmortigintojn. Se ni aldonus la sinmortigintojn en decembro, estas

かした。ter'glit'igo 地送り。je inter'tempoj de の間隔を置いて。rifuge'jo 避難所。fabrik'ado 製産。

【七時間に亘つて東海道線塞がる】ŝarg'-vagon'aro 貨物列車。de'rel'igi 脱線す。renvers'igi 轉覆す。tra'paso 通過。

—【7 頁より】—

は sur si がないと唯 posedi と同じ意味にさられるから不可である。

12. tiel grandaj ili estis teil は「それ程に」の意味でお母さんがはいてゐた程それ程大きい意味です。それで語の配置も普通とは倒になつてゐる。

13. rapidis trans'kuri 前置副の trans は「……向側に」又は「……を越えて」の両方の意味をもつてゐますが kuri と云ふ動作を示す動詞がこれについて transkuri となれば後の意味で「……を越えて(或は……をよこぎつて)走つた」と云ふ意味になる。transkuri trans la straton と云へば詳しいがこゝな場合すべて tnans を二度くりかへすのをさけて省略するのが普通である。

Letero de S-ro Peraire

Estimata Redakcio

Mi petas vin sciigi al viaj legantoj, miajn plej sincerajn kondolencojn pro la nova katastrofo, kiu malfeliĉigis denove la japanan popolon. Ne povante skribi al ĉiuj samideanoj aparte — mi esperas ke vi aperigus tiun peton en via gazeto

Kun tiu espero, mi denove dankas vin kaj samideane salutas Peraire

KORESPONDA FAKO

★Japanujo:—S-ro N. Haŝida, Akaoka-maĉi, Koĉi-ken, dez. koresp. kĉl, L. PK.

★Japanujo:—S-ro M. Ara, Jamaguĉi Kotoo-

klare, ke la nombroj superos la nombron de 1929.

La unua kaŭzo de sinmortigo, laŭ preciza esploro, estas pesimismo pro malsano, dua, vivmalfacileco, frenezigo, malordo en la hejmo kaj duopa sinmortigo, sed ni ne povas mal-kaŝi, ke esenca kaŭzo de tiuj ĉi, pesimismo pro malsamo, frenezigo, aŭ malordo en la hejmo, estas la malfacileco de vivrimedo.

(Trad. J. H.)

【自殺の激増】sin'mort'igi 自殺す。tro'-mult'igi 激増す。tragedio 悲劇。viv'mal'-facil'eco 生活苦。statistiko 統計。kaŭzo 原因。pesimismo 悲観。du'opa sin'mort'igo 情死。

14. preter'galopis 詳しくは pretergalopis preter ŝi とすべきだらうが preter があるからこういはずとも明瞭に判る。言葉は論理的であるよりも前に simpla kaj belstila であればならない。

15. plu ne は「最早や……せぬ」の意であるがこの際 ne plu と云ふのはよくない。と云ふのはこうすると ne plu は打消す事になる(普通エス語では否定語が否定される語の前へ来るのが普通だから)から。jam ne, ankoraŭ ne 等も同様である。委しくは Z 博士の Lingvaj Respondoj をみられたい。

16. iam は未来にも過去にも使用される。未来なら「他日」又は「いつか」と譯し過去なら「嘗つて」と譯すればよい。

Gakko (nacia kolegio), Jamaguĉi, dez. L. PI. libr. de Esp.

★U. S. S. R.:—S-ro N. Y. Ĉistikov, Moskvo. Centro, Starasad-kij per. 9, kv 21, dez. intŝ. PM. fot. PK. libr.

★Japanujo:—S-ro K. Sakuma, Nakamura-maĉi 1388, Naka-ku, Jokohama, dez. intŝ. L. IP. PM. kun seriozuloj.

★Esp.-Grupo de Tokio Belarta Lernejo. Ueno, Tokio dez. koresp. pri belartoj kun artistoj, artlernantoj, artkritikistoj, arthistoriistoj ktp.

★Japanujo:—S-ro S. Macuba, Tanabe-ĉo, Ŭakajama-ken, dez. koresp. kĉ.

POPULARA SCIENCIO

LONGAJ KOLOJ KAJ MALLONGAJ KOLOJ

LAŬ RUTH C. BISBEE

K. Cujuki

Kolo estas nur mallarĝa parto de la korpo, kuniganta la kapon kun la trunko. Granda nombro da animaloj posedas la kolon en tiu ĉi senco; kiel ekzemple, abeloj, vespoj, noktpapilioj, papilioj kaj formikoj. Fakte, oni povus diri, ke ĉiuspecaj insektoj havas ambaŭ kolon kaj talion en la korpo—kiu konsistas el tri partoj; kapo, torako kaj abdomeno, inter kiuj troviĝas artikoj.

Ĉe kelkaj insektoj, kiel skaraboj, tiaj artikoj estas apenaŭ videblaj, kaj kontraŭe ĉe la formikoj ambaŭ kolo kaj talio estas tiel mallarĝaj, ke la tuta korpo ŝajnas esti en danĝero disrompiĝi en tri partojn. Kelkaj el la plimalaltgradaj kreitaĵoj ankaŭ havas kolon inter kapo kaj trunko en la formo de malgranda artikoj. La sepio kaj la polpo havas difinitan kolon, kaj ankaŭ havas kelkaj el la dafnio.

* * *

La kolo estas plej bone kaj plej multe konforme disvolviĝinta ĉe la spinaj animaloj, kaj oni ordinare pensas la kolon el vertebrojn konsistantan kiel modelan kolon.

La spino kune kun la kranio formas la akson de la tuta skeleto, kaj nature parto de la spino devas pasi tra la kolo. La spino estas dividita en multajn malgrandajn ringsimilajn ostojn, la vertebrojn, kiuj havas ne similajn strukturojn en detaloj. Tiuj en la kolo, estas nomitaj kolvertebroj, kaj varias en nombro en diferencaj animaloj. La spino estas efektive protektaĵo por la spina medolo, kiu estas unu parto de la centra nerva sistemo, kiu kuras de la cerbo tra la tuta longeco de la korpo. La vertebrojn estas interkroĉitaj per la spina medolo, same kiel globetoj interkroĉitaj per ŝnuro. Nature la spina medolo pasas tra la kolo, kaj tio estas granda difekto por la korpo, ĉar kiam la kolo estas rompita aŭ delokigita, kion faras ordinare akcidento. La ezofago kuranta de la buŝo ĝis la stomako kaj la traĥeo kuranta de la buŝo ĝis la pulmo, ankaŭ pasas tra la kolo, kiel faras la sangangioj de la kapo.

Ĉiuj spinaj animaloj posedas plejmulte el tiuj strukturoj, sed la parto enhavanta ilin estas ne ĉiam mallarĝigita por formi la kolon.

* * *

Ĉe fiŝoj la korpo estas tre malofte mallarĝigita malantaŭ la kapo. Estas unu aŭ du kazoj, en kiuj sintrovas eta artikoj kiel ĉe la hipokampo, sed tiu ĉi estas ne-ordinara. La alia ekstremo estas ĉe la sunfiŝo (*Orthogonicus*) kaj lofoj, ĉe kiuj la korpo estas efektive pli larĝa ĝuste malantaŭ la kapo ol ĉe ĉiu alia parto. (*daŭrigota*)

文藝欄

活動で
逢つた女澤田撫松原作
南 晶世譯稿

kinematografejo 活

動寫眞館

naskiĝloko 郷里

okaze de ...の折に

libertempo 休暇

onidiro うわさ

tertremo 地震

diligente 勤勉に

lerneja elspezo 月

謝、學資

sen-pacience 待ち

違はがつて

rekomendita letero

書留手紙

poŝtmandato 爲替

enmanigi 手にする

strattramo 市電

elvagoniĝis la unua

眞先に降りた

butikaro 仲店

forpasigi la tempon

暇をつぶす

ĉirkaŭaĵo あたり

ĝuste tiam 丁度其

時

... prezentata 映寫

中

ĥaosa 混沌たる

kompreni 了解する

absorbi 惹きつけ

られる

miksita まちつた

ĉirkaŭrigardi あた

りを見廻はした

graseta 肉附のよ

い、小太りの

LITERATURO

La Virino en Kinematografejo

De B. Saŭada

Trad. S. MINAMI

SAKAMOTO-JOŜIO, studento de universitato, decidis ne reveni al sia naskiĝloko okaze de la somera libertempo.

Neatente leginte la leteron de l' patro, dirantan, ke li nepre revenu hejmen en tiu ĉi libertempo, ĉar laŭ onidiro tertremo denove minacus Tokion, li tuj skribis al la patro, ke en tiu ĉi somero li restos en Tokio por diligente studi, kaj pro tio li sendu al li krom la lerneja elspezo kvindek enojn por aĉeti librojn.

Post la forsendo de la letero, Joŝio atendis la monon senpacience, kaj baldaŭ alvenis la rekomendita letero, kiun li tuj malfermis, kaj li trovis en ĝi poŝtmandaton de 150 enoj, 100 enoj por la lerneja elspezo kaj 50 enoj por libroj.

Tuj kiam li enmanigis la monon, Joŝio, kiu tute ne intencis aĉeti librojn, veturis per strat-tramo al „Asakusa.“ Kiam la tramo haltis antaŭ „Kaminari-Mon,“ Joŝio elvagoniĝis la unua, promenadis sur la strato de amuzejoj, ne rigardante la butikaron, kiu pliboniĝis post la granda tertremo.

Ankoraŭ la tempo estis frua por li viziti la celitan lokon, tial li eniris en iun kinematografejon por forpasigi la tempon. Li estis gvidata en la sidejon de la unua klaso sur la unua etaĝo, sed Joŝio, kiu venis de luma ekstero, ne klare povis vidi la ĉirkaŭaĵon, eĉ siajn piedojn, ĉar ĝuste tiam filmo estis prezentata. Do, li pene sin lokis laŭ la gvido de gvidistino. Baldaŭ lumiĝis, Rigardante la ĥaosan filmon, kiun li ne vidis de la komenco, li tute ne komprenis ĝin.

La rigardantoj, kiuj ĝis tiam estis absorbitaj al la prezentajo, subite ekbabilis, kaj Joŝio, ekscitita pro miksita kaj sensenca bruo, intence ĉirkaŭrigardis. Tiam venis en la sidejon bela juna virino, 18 aŭ 19-jara, kaj graseta,

sed ĉar ne sintrovis sidloko, ŝi staris momenton ŝajne serĉante por si spacon. Tion rimarkinte Joŝio volis flankeniĝi por sidigi ŝin apud si, sed li ne kuraĝis kaj hezitis, ĉar tro bela junulino ŝi estis.

Tamen la virino kredeble jam divenis lian intencon.

Pordonu, sinjoro!“ ĉarme alparolante al li intence ŝi sidiĝis apud li. Se la persono estus viro, li eksplodus, ke tie neniel povas sidiĝi, tamen la persono estis posedantino de bela korpo, tial li flankeniĝante lasis ŝin sidiĝi. Kiam la virino eksidis, kvazaŭ falante, ŝi tuŝis la genuojn de Joŝio per la manoj.

„Ho! pardonu min, mi petas.“

La virino ĵetis al lia vizaĝo koketan rigardon.

Ĝuste tiam, denove mallumiĝis, kaj ree komencis la film-prezentado. De tiam, kiam la virino sidiĝis apud li, Joŝio jam ne volis rigardi la prezentaĵon. La virino sin premante al la korpo de Joŝio kaj apogante sin al li, tiel alproksimigis sian vizaĝon al tiu de Joŝio, ke ŝia spirado lin tuŝis.

Joŝio estis mirigita de la neordinareco de la agoj de la virino; kaj kiam ŝi sidiĝis ŝi tuŝis liajn genuojn per la manoj, kaj ŝi eĉ apoganta al lia korpo sian... Tion sentante, li ĝojegis, tiel ke la korpo tremis pro impulso, ankaŭ li provis alpremi sin kontraŭ ŝi. Jen, ankaŭ la virino denove sin repremis al li, kvazaŭ responde.

Nun, nur per tio li jam ne povis esti kontenta kaj pensis, ĉu ne ekzistas pli konkreta esprimo de la volo. Dume, li sentis, ke ŝia mano venis sur liajn genuojn, li etendis do la manon tien kaj li certe trovis, ke ŝia mano estis tie. Jen, ŝian manon li tuŝis, sed ŝia restis senmova, tial li metis la manon sur ŝian, tamen ankoraŭ ĝi restis senmova, do li decide premis ŝian, ankaŭ la virino repremis lian. Jam estante senpacienca, Joŝio intencis altiri al si la virinon premante la manojn, sed li vole ne vole devis forlasi la manon, ĉar tiam eklumiĝis: la prezentaĵo finiĝis.

Kvankam li forlasis la manon, tamen li jam ne povis kredi ŝin kiel nekonatulinon, li sin turnis al ŝi por vidi, kian mienon ŝi havas. Ŝajnis al li, ke ŝi estas naiva kaj treege belaspekta, eble pro la vizaĝo hontema kaj klini-

spaco 空き

flankenigi わきへ
よる

heziti 躊躇する

alparoli 話しかけ
る

eksplodi 爆発する、
剣突を喰はす意

lasi~i ~させる

genuo ひざ

koketa rigardo 媚
びるやうな目附

ĵus tiam 丁度其時
ree 再び

sin premi al ...に
身をくつつける

apogi sin よりか
ゝる

alproksimigi 近よ
せる

spirado 呼吸

ago 行動

apogi もたせかけ
る

impulso 衝動

alpremi 押しつけ
る

kvazaŭ responde ま
るで之に應へる
ように

kontenta 満足な

konkreta... 具體的
意志の表示

etendi のぼす

restis senmova ち
つとしてゐた

decide 決然と

jam... もうたまら
なくなつて

forlasi やめる

vole ne vole 嫌應
なしに

ne-kon-at-ul-ino 見
識らぬ女

mieno 顔付き

naiva 無邪氣な

bel-aspekta 美しい
姿の

ek'ior'paŝi 歩み去
つてゆく
necesejo 便所
el-ir-ejo 出口
eksteren 外へ
multohomeco 人混
み
sekvis ŝin あそを
つけた
preterpasi そばを
通る
direkti sin 向いて
ゆく
tra la vojo 道を通
って
intence わざと
distanco 距離
perdiĝi (見) 失はれ
る
preterpasantoj 通
行人
serena はればれし
く
atingi 達する
pramotransirejo 渡
船場
nepre どうしても
kontraŭe de に反
して
sin turnis flanken
よそを向く
sintenado 態度
perfidita... あてが
はずれる
pramo 渡船
postaĵo de la boato
艦(ト)
kaŭri しやがむ

ĝanta. Li atendis la denovan mallumiĝon, pensante, ke li faru al ŝi plej eblan agon en la venonta mallumaĵo. Sed la virino stariĝis kaj ekforpaŝis, li ĵetis la rigardon al ŝi, pensante, ke eble ŝi vizitas necesejon, tamen ŝi rekte alpaŝis al la elirejo, ne vizitante la necesejon, tial Joŝio jam estis senpacienca.

Ankaŭ li ekstaris, alpaŝis al la elirejo, kaj jen la virino estis sur la strato, li rapidis eliri eksteren, sed jam la virino ne estis antaŭ liaj okuloj pro la multohomeco. Kun ĝeno li serĉadis la virinon en la amaso da homoj, fine li trovis ŝin alpaŝantan al la „kalabas-lageto.“ Li tuj sekvis ŝin. La virino preterpasante „Hanajaŝiki“ direktis sin al la malantaŭa parto de „Kannon-Templo“ kaj tra la vojo de „Umamiĉi“ venis al „Jamanc-ŝuku.“

Joŝio, postsekvanta ŝin, volis alpaŝi al ŝi kaj alparoli, tamen li timis, ke per tio li ĝenus ŝin en homplena loko, tial li intence ne proksimiĝis al ŝi kaj paŝis post ŝi kun certa distanco.

Tamen timante, ke ŝi perdiĝas, kelkfoje li kuradis inter preterpasantoj, kiam ŝi malproksimiĝis de li. La virino estis tute serena kaj eĉ ne sinturnante malantaŭen, venis proksime de „Macĉi-Jama“ tra la vojo de „Jamano-Ŝuku“ kaj atingis al la pramotransirejo de „Imado.“ Nun, jam nepre li devis renkonti ŝin, li vidis la vizaĝon de la virino, staranta en la sama loko. Kontraŭe de lia supozo, ke ŝi eble montros al li ridetan mienon pro tio, ke li sekvis ŝin, sed ŝi ekvidante lin sin turnis flanken, ŝanĝante la mienon. Kvankam Joŝio vidis tian sintenadon de l' virino, kaj iom sentis, ke li estis perfidita en sia supozo, tamen malmulte li atentis pri tio, pensante, ke ŝi sin tenis pro hontemo de virgulinio.

Jen alvenis la pramo, el kiu elŝipiĝis la homoj, kaj poste enŝipiĝis ĉirkaŭ dek personoj, kiuj atendis la boaton. Joŝio ekstaris en la postaĵo de la boato malproksime for de la virino, kaj la virino kaŭris ĉe la pinto kun la dorso turnita al Joŝio.

—(daŭrigota)—

NELIBERAJ HOMOJ

Originalo de Teppci Kataoka

Tradukita de Hiroŝi Jamada.

(1)

„Mi bone konas min mem. Mi estas kamparano:— nur vilaĝa oficisto malalte salajrata. Mi ne kredas, ke ŝi vere amas min, nek kredas ke mi havas ion allogan for ŝi.

„Tamen mi estas ankoraŭ juna kaj havas fortan pasion. Ĉu oni dezirus ke mi ne absorbiĝu je ŝia raveco, estante ĉiam apud tia belulino kiel ŝi? Tio estas nerezonebla afero!

„Forigu ĉiajn, kiuj kaŭzas iluzion. Bone, de nun mi ne vidu ŝin por eterne. De nun mi min okupos je aliaj aferoj tute seniluziaj. Mi enŝlosu min mem en mia propra vivo. Mi algluu mian koron sur la tablon de la vilaĝa oficejo, kie regas nur sei gusteco kaj sekeco!

„Aliaj laŭplaĉe laŭdu ŝin—ke ŝi estas helimpresa modernema kaj la plej novtipa virino. Sed ĝi neniel koncernas al mi. Mi estas senvalora por esti rigardata de ĝi per „amsento.“

— 1 —

„Blue liniitaj paperoj, impostmarkoj, ruĝa ŝtampinko, skribpenikoj... mia tuta korpo estas okupita de la odoraĉo de tiaj objektoj!“

*

*

Sanroku Macuki, juna vilaĝoficisto, skribis ĝis tie en la taglibro, kaj profunde ekĝemis „A...A“.

„Sanĉjo, venu por akcepti vizitanton,“ eksonis la voĉo de lia patrino en la vendĉambro. Frapite Sanroku levigis de la skribotablo. Spegulo pendas sur kolono. Li trovis en la spegulo sian vizagon gaje ridetantan kaj ŝajnigis sin serioza per tuso intence farita.

Sanroku jam divenis, kiu estas la vizitanto. Certe ŝi! Ĝi estis ŝi! Ŝiu ne vidi por eterne—tiel kun kuraĝo li ĵus promesis al si mem en la taglibro!

Li aliris al la kolono, kiu staras inter la mangôĉambro kaj la vendĉambro, kaj montris la vizagon.

„Hej!“

„Ĉar mi venis tien al la poŝkesto por enmeti poŝtkartojn, mi vin vizitas.“

Ŝi staris sur terplanko en la vendĉambro, ĵetante ridetantan rigardon sur Sanroku'on.

„Nu, ĉiiru, mi petas, fraŭlino!“

La patrino sidanta en la ĉambro estis ravita de la junulino, kiu ŝajne disfluigas odoron de moderna urbego.

— 2 —

Ciu fariĝas singardema, se li aŭdas tiajn laŭdajn vortojn. Komprenoble li ne bezonus esti maltrankvila por regali sin rekompence al la laŭdaj vortoj. Sed di-veni koresenton de l' junulo el lia mieno estas tre facile fareble por sagasulino kiel ŝi.

Sanroku rugigis la vizaĝon.

„Ciuŝe, kiam mi interparolas kun vi, mi min s-tas tute feliĉa.“

„He, vi parolas tiamaniere! — Kvankam vi ĵus sen-kompate skribis en la libron por min moki!“

„Vi estas tro ruza. Elkzistas nenia materialo al mi por vin moki.“

„Kion do vi skribis... pri mi?“

„Vin mi laŭdegis.“

„Jam sufiĉas, sinjoro. Cinokaze mi estas saltulino —

Neniu scias, kion mi faris en Tokio.“

„Vi parolas tre sarkasme...“

„Mensogo! Certe vi ankau tiel pansas pri mi en via koro.“

„Mi ankau? Ĉu troviĝas tia aĉulo, kin diris tian sencecaĵon pri vi?“

„Jes, diras ĉiuj... en la vilaĝo. Mi bone scias. Ili ĉiuj min kalumnias. Ili diras ke en Tokio mi min

„Sed ĉar mi sciigis al mia familio, ke mi nur iras al la poŝtkesto, kiam mi eliris el la domo.

„Nur momenton; — ĉu malbone?“

Ŝi hezitis dum momento starante sur la terplanko, sed fine ŝi eniris en la gastocambron trapasante per siaj nudaj piedoj mallarĝan specon sur matoj inter la genuoj de lia patrino kaj skribiloj en la vendcambro.

„Mi ĵus skribis en taglibron,“ li diris — kondukante ŝin apud sian.

„Estas laudinde! Ĉiujare mi vane aĉetis taglibron, nur volante enskribi en ĝin almenaŭ en tiu nova jaro.“

„Mi ĵus skribis pri vi en mia taglibro.“

„Ho malbeninde! Certe por min kalumnii!“

„Tute malon...“

Sanroku momente faris malĝojan mienon, sed ĝi tuj ŝanĝigis en ridetantan. En fakto li sentis feliĉegon, sekve li ne devis fari malĝojan mienon ĉe ŝajnige. Mi devas malĝoji — tiel li pensis en sia profunda koro. Li eĉ pensis ke unuflanka amo estas la plej mizera tragedio en la juneco. Tamen li neniel povis trovi en si, kiu staras ĉi tie tiel feliĉa, heroon de la tragedio.

„Al vi okazis kia ĝojinda afero, sinjoro?“

„Kial?“

„Ĉar al mi ŝajnas, ke vi sentas vin feliĉa.“

海外報道

小此木貞次郎

1930 年の回顧と 1931 年の豫望

30 年の回顧

ザメンホフが遂にルビコンの流れを渡つて 1887 年 “D-ro Esperanto: Internacia Lingvo” を發表してから 44 年の歴史がつくられた。ヘーゲルが彼の辨證法に於て説く如く、全べてのものは變易的でこそ眞の實在である。進展そのものが眞の姿なのである。エスペラント運動も 44 年前には社會の表面に現れてゐなかつた。然し國際語 Esp. は歴史的當然性を以て現出しぐんぐんと進んでゆく。一瞬と雖も同じ姿では止まらない。まして週途期を脱しない我等の運動の原野に於てはより明瞭な進展の跡が見られなければならない。

先驅者の永眠。そしてその進展の途上に於て永久の盡力を誓ひながら、充分な成果を見ずして逝かれる有名無名の先驅者に對して、吾々は心からの敬意を表する。1930 年度に於て Hankel 女史。Sebert 將軍。Courtenay 教授。Ménil 男等を失つた。

各國の運動。世界の到るどころの國々で宣傳、講習、會合、大會等々を以てその目醒しい活躍を示してゐる。其の他瑞典政府の補助金、ブルガリヤ遞信局の好意、芬蘭社會民主黨の支持、チエツコ鐵道省の採用、ワルシワやチエツコに於ける Zamenhof 街の出現等。尙 Ĉe-metodo による講習の驚く可き成功は遂に Ĉe-instituto の設立となり、組織化され、その方法による講習は瑞典、丁抹、バルト海沿岸諸國を初めヨーロッパの各地にわたり、その絶大の効果を収めてゐる。又南北アメリカは舊大陸に比してはやゝ振はないが、Los Angeles の活況、ブラザルの進展、アルゼチン、コロンビア、ホンヂユラス等における組織化等力強いものがある。尙又個人の同志の宣傳講演旅行をなす者が増加して來た。

各分野に於ける活動。Internacia な會議のエス語採用、(萬國優生學會議、ロータリー等)。教育方面では各學校に Esp. を必修、自由科に採用し、教員のエス語學習の目醒しいものがある。ETK (Esp. Turista Komisiono),

少年團等の新らしい前進。Esp. トーキーの成功。ラヂオ界に於ける Esp. の進出はその性質上當然であつて、Heroldo 紙が毎週その programo を載せてゐるが實にすばらしい範圍を持つてゐる。

大會。1930 年度最大の行事第 22 回萬國大會は Oksfordo に開かれ、29ヶ國 1,211 人の參加者を見30年度の總決算をした。一方階級的對立は歴史的歸趨性の當然の結果として尖鋭化され、左黨エス運動は明瞭に分化して來た。ドイツ、ロシヤに最も多數の會員をもつ SAT のエス運動の活氣は Sennaciulo が示してゐる。その第 10 回大會は同じく 8 月同じ英國 Londono に於て 5 日に亘つて開かれ、25ヶ國 328 名の參加者があつた。又盲人 Esp-isto 第 9 回大會が矢張り Oksfordo に開かれ 77 名の出席者を見た。

Esp. 宣傳旅行。Esp. 運動の中心たる ICK. はエス界に於ける最初の試みとして Esp. 宣傳の世界旅行を計畫した。かくて選ばれた Speciala Delegito Scherer 氏は 9 月 15 日 Los Angeles を出發して世一界周の途に上つた。日本への訪問でこれが豫想以上の成功を収めたことは内地報道が詳細に語つてゐる。

かくして多事なりし、1930 年も Esp. 運動史上に明な足跡を残して過ぎ去つてゆく。

31 年の豫望

前述せる如く 30 年のエス運動は世界的の種々な困難の中を切抜けて歩みを雄々しく續けて來た。吾々は希望を新にして 31 年を迎へる。萬國大會は波蘭の Krakovo で第 23 回を、SAT は Moskvoo で第 11 回を。夫々此等の準備に力を盡して同志は歩を進めてゐる。Speciala Delegito はシヤム、印度、アデンを通つて Eŭropo に入る。そして 8 月には Krakovo の大會で大いに夫迄の收穫を發表するであらう。吾々は彼の energia な努力が各地の同志との共同により Esp. 運動の速進に大きな影響を與へることを信じ且心から希望する。31 年の陣頭に立ち吾々は心に新に繰返す。“Obstine Antaŭen!”

Dzika 街遂に Zamenhof 街に

吾等の Majstro “Zamenhof” の名を冠した Strato が世界の各地に数多く出来てくることは Esp. 運動の発展と共に當然であらう。西班牙では 1923 年に既に 6 つ、奥大利ウイーン市にも生れ、最近チェツコにも出来たことは皆本欄で曾て報道した通りであるが、此の他に可成あること、思はれる。さて Zamenhof 博士が永らく住んでゐた Varsovio の Dzika 街の Zamenhof 街への改名運動に就いてはさきに伊藤氏が本欄で二回にわたつて報道した如く、1927 年ワルシャワ市會に此の改名の提案がなされ密議せられる筈であつたところ、何故かその儘になつてゐたのを昨年の春同市の Akademia Esp. Rondo が俄然猛運を起して、住民に廣く募集して得た 23,522 の請願の署名と請願書を市長に提出し、市長は之を快く受理した。その結果は後報を待つことになつてゐたところ、近報によれば其の後市會は之に對して賛意を表し、改名に決定した。因みに Dzika 街は 1897 年 Zamenhof が北方の Grodno 市から再び Varsovio に歸つて居を定めた所であつて、彼が死ぬ少し前 1916 年其の頃大戰の慘禍を目のあたり見て心を痛めながら、平和克復の日の一日も早からんことを希ふてゐた彼の衰へた健康を氣遣つて、夫人が彼と共に市の公園の近く、Królewska 41. に移るまで 20 餘年間も永く居住してゐた所である。この街の Zamenhof 街への改名は最も意義深きことと云はねばならない。

東に日本、西にチェツコあり

チェツコ鐵道省エス語採用。我が鐵道省が既に “Japanlando” や映畫「四季の日本」其他でエス語を利用し、宣傳を行つてゐることは衆知のことだが、昨年 9 月チェツコ鐵道省は Esp. に關心し始め先ず同國に關する折疊み案内書及び繪ハガキ一組を作製した。此の事を Heroldo 紙がいち早く報導したところ世界の各國 24ヶ國から申込みが殺到して忽ち品切れ。以上の事實によつて同省はエス語の効用及び重要性を痛感した。かくて今後の出版印刷には必ず各國語以外に Esp. を加へることに決定した。

隣邦支那の近況

目下 Hankoa (漢口) Esp. Asocio の會員數 200 を算し、その中には唯一の日本人にし

て熱心な且同協會の kunlaboranto たる岡村氏がおる。夏季講習を行ひ、參加者 40 餘名。尙 9 月より 1930 年末迄の定期講習會行はれ、初級上級併せて 150 餘名の出席者がある。Gvidantoj は蕭、傳、樂、方、の諸氏で、いづれも熱心な若手であり且可成よく話す。遺憾乍ら Biblioteko は甚だ貧弱であつた。機關紙として、月刊 8 頁の “Espero” あり、謄寫版刷りの “Hela” は主に報告用として發行されてゐる。 (大橋介二郎氏報)

△世界語學會歡迎
大橋介二郎
日本南畫家大橋介二郎氏、爲一熱心世界語運動之青年、氏鑒於世界語在東亞方面、日漸風行、故久著來華遊歷之心、今春大橋氏領上海世界語學會之請、來華講遊世界語運動、氏使決心來華一遊、夏間大橋氏漫遊東北、並飽覽津平一帶風景、於上月抵滬、作世界語演講、聽者頗多。最近大橋氏洞悉長江流域一帶、世界語運動頗形熱烈、遂於日前搭鳳陽丸來漢。事先漢口世界語學會得風電、知氏在十一日七日可抵漢、遂從雲同志等乃於是日上午十二時持綠星旗往江干歡迎。十二時鳳陽丸抵漢時、則見氏衣皮袍馬褂、西瓜。

中華民國紙上に現はれた大橋氏
歡迎會の記事

エス讀書界の寶玉現はる

今から 33 年前 1897 年瑞典人 S. A. Andrée 氏は二人の同志と共に身を纖弱な一ヶの輕氣球に託して、北極探險の決死的冒險の途に上つた。そしてその後杳として消息を絶ち、國內に於ては彼の姿は詩に、物語に描き出されて人々の口頭にのぼり傳へられて來た。ところが 1930 年夏諾威科學探險隊によつて、偶然北極洋中の Blanka Insulo 上で、彼等が最後の日を送つた場所が発見された。そしてその露營の跡の中に彼等が輕氣球と、次に氷、雪、水と争闘しつゝ死に直面しての日日の刻一刻の生活を綴つた日記が見出された。かくて全世界から集注された視聽の中に瑞典政府の許可のもとに、此の小説よりもより興味ある眞に生きた生と死の争闘の手記は 11 月 25 日 14 の言語で同時に出版された。そして此等の中にエスペラント譯の一冊が含まれてゐることは、Esp. が vivanta lingvo であることを示すばかりでなく、世界の各國の國語に比肩して優ることも劣らぬ位置にあることを立證してゐるものである。書名は “Per Balono al la Poluso.” 約 400 頁、多數の寫眞挿入。譯者はエス原作 “Al Torento” を著して賞讃を博した Stellan Engholm 氏。校閱は akademiano の Paul Nylén 氏。(尙同書は一月中には學會にも來る豫定故御期待の程を 22×15 cm. 410 pg 多數寫眞入。)

★.....LA...REVUE...ORIENTA...★...ENLANDA...KRONIKO.....★

内 地 報 道

★...締切毎月十五日.....編者...秋 山 栗 郎...★



9月24日日活撮影所前にて

◎雑誌 オーム の エス 語 欄

本邦電氣工學雜誌中の王者たるオームはエスペラント欄を設けることとなり新年號に「本邦最大の廻轉變流機」Rotacia Konvertoro, la plej granda en Japanujo (平澤義一氏執筆)を掲載。工學關係の本會々員より將來同欄を擴張繼續する様kuragiga salutoを東京神田區錦町三丁目オーム社宛寄せられむことを切望す(小坂)。

東京 アルヂエント・クンシード (銀座明治製菓) 毎土曜 14時より 18時まで、第二土曜に限り 19時より 23時まで。新年の初會合は一月三日 14時より。夜の會は十日 19時より。ごなたも歓迎、新しい顔振れを望む。

★Mita Vespero (三田明治製菓、毎月第一土曜 19時より) 第一回を十二月六日 19時より催し、幸ひに多數同志の出席を得て盛會であつたが、第二回は都合により一月は中止して二月の第一土曜たる七日に催す事に決定した。同志の參會を希望する。

★藥學エスペランティスト懇話會 11月14日 18時より帝大山上御殿にて開催さる。緒方、杉井、長田各博士を始め出席者 26名。晚餐後緒方、杉井博士のエスペラントに好意あるお話、自己紹介があり、記念撮影をなす。次回幹事は倉地、清水兩氏と決定。22時散會す。

特記すべきは藥學界に於けるエスペラントの進出に鑑み、藥業週報社は毎號エス語記事を掲載することになり、ヘルメーサ・ロンデートの手により既に掲載されつゝある。

東京美術學校とエスペラント

我が國の傑出せる美術紹介を目的とせる東京美校エス部は、先に繪畫二種(繪端書)選定刊行したが、今度、建築、彫刻の各一種づゝ選定發刊した。



名古屋にてシエラー氏

(新刊)彌勒菩薩(彫刻) 中宮尼寺、飛鳥時代
夢 殿(建築)法隆寺東院、奈良時代
(既刊)山水圖 狩野元信筆、東山時代

浮世繪人物圖 岩佐又兵衛筆
徳川時代

御希望の方は學會迄御申込み下されば、各、一組(二枚)、送料共二十錢で御捌ちする。外國の通信に、此日本美術紹介の繪端書を利用されん事を乞ふ。

★横濱エス協會創立

【横濱】 9月21日横濱外語校にて出席同志六拾名の賛成を得て上記協會を創立した。目的は當市に於ては最近エス語運動が急激に發展し學會支部、希望社その他數種の集りが雜然とし混亂して來たので當市に於ける全同志を叫合する意味に於て。

★ベルダ・ユピテール 毎木曜夜(中區南仲通、横濱外國語學校にて)當協會の社交機關として大いに活躍中。★一週年記念會は十一月廿日伊勢崎町有隣堂にて開催、雨天にも拘らず會するもの東京より平澤、伊藤の二君、平塚より清水の御大を加へ大盛況、皆々陶然として綠の雰圍氣に酔ひ最上の感激と喜びに時間を忘れた。★十一月十一日ブルガリヤの同志イリエフ氏令嬢と共に來訪。數名の同志と共に支那、伊太利領事館を訪問し Y.M.C.A で中食の後オデオン座にて „En Okcidento nenio Nova“ を見る。同氏は大戰中英佛聯合軍と交戦したために懷古の情に堪えぬものがあつた様子。



二高スペラント展覽會

★仙臺エス會創立

【仙臺】 昨年五月帝大、二高、學院、市民等の各會を一丸とした仙臺エスペラント俱樂部が生れて以來、仙臺のエス運動は急速の發展を遂げたが、今回 Siherer 氏の來仙に刺激され、新しくより合理的な組織の必要にせまられ、ここに新たに井上帝大總長を會長とする Sendai Esperantista Societo (仙臺エスペラント會) が組織せられるに至り、11月8日政岡家で發會式をあげた、會員25名、入會金50錢、會費1年1圓。尙會の第一回事業として、二高のエス展修了後直ちに、更に材料蒐集の上、發會式當日及び翌日曜の二日間、帝大法文學部で、エス展を開き、圖書の賣上30圓以上に及んだ。



10月26日松江にて符氏と Lago Rondo の人々

長野

ハムレット論講(木曜夜)縣町ライジングサン内。初等研究會(月曜夜)狐池竹内藤吉方。會話會(第三火曜夜)長野市徳永町安部勝四郎方。中等研究會(木曜夜)上田市横町神職會議所。

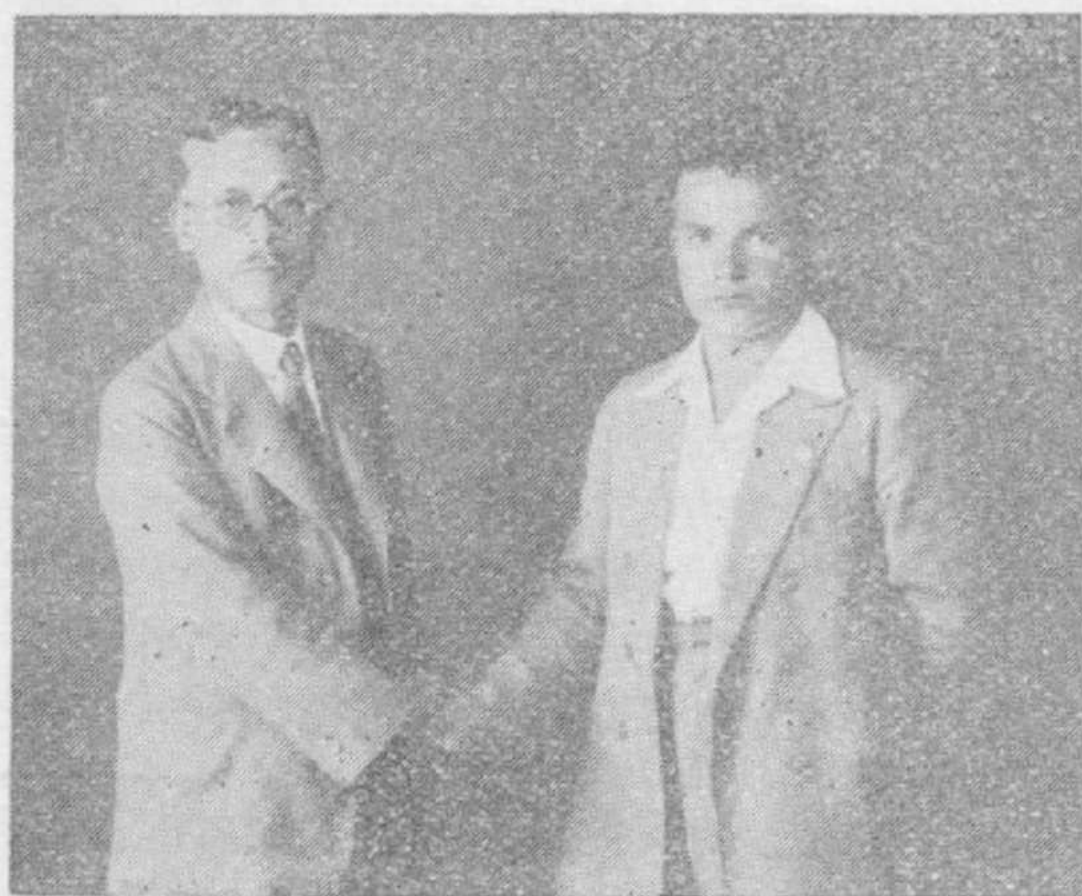
三重

十二月七日山田市神都エス會主催のエス展覽會を希望館にて開催す。林好美、南唱世氏らより多數の出品あり盛況。熱心な同志久保田氏はエス語説明入りの二見浦夫婦岩のエハガキを發行された。外國への文通に好適。

北海道

下富良野 エス普及會北海本部主催にて

十一月廿一日十日間の初等講習終了を機として20時より懇談會開催。受講者代表として『丸ッ』運送店主任村形須造氏及講師下富良野高女教諭岡田千里、普及會中村久雄兩氏の挨拶あり。今後は毎月一回の例會を開き學校、鐵道、町内等の各關係により、各部會毎に研究の歩を進めることに決定。尙當日は普及會本部や札幌エス會等より參考資料を百數十點展覽に供し濃厚な熱をあげ深い印象を残した。



別府にてペレル君と麻布氏

京都

11月15日。京都エス會例會を中原氏宅にて開く。30名餘出席。高工教授本野精吾氏の „Skribmaniero de literoj“ と題する講演あり。話が終つてから本野氏は珍奇なペンを用ゐて、いろんな裝飾文字を書いて見せられた。風間は早速自分の Plena vortaro に Kazama-Tunehiro と書いて貰ひ、丹羽君だつたかに „Senpage!“ とひやかされた。器用な松田君など盛に skribmaniero の練習をやつてゐた。小山君が proleta kurso の推薦演説を始めたり矢戸氏が歌を唱つたりして終始愉快に談笑。22時過散會。

神戸

11月3日ブルガリヤの同志 Ilief 氏父娘來神、同夜熊内消費組合階上にて歡迎會。五日北野小學校、第二高女、六日第三中學校、七日御影師範の四校にてブルガリヤ及びバルカン諸國の國情及びエザブト、アラビヤ、インド諸國の旅行談、前田健一氏通譯。

★白濱エス會創立

【白濱】 兵庫縣飾磨郡白濱村中野伊作氏を中心にして、やか乍ら數名の會員にて活躍を開始した。毎月一、六のつく日に研究會を開き外國文通、宣傳に餘念がない。

★甦生の吳エス會

【吳】 吳エス會は甦生の第一回例會を十一月十五日カフエーブラジルにて出席者三十餘名、第二回を十二月一日に開いたが向後毎月一日、十五日に催すことに決した。さきに初等講習を開きその意氣を示し現在會員は五十餘名で益々發展の見込である。

★ザメンホフ祭の魁

福岡

十二月六日福高の試験を前にして例年より早く Zamenhof-Naskfesto を開催、折柄 Ĉeĥoslovakujo への途上來福した熊本の同志東修氏を加へ出席者三十四名。18 時に武谷氏の開會辭に festo は開かれ江崎博士の Parolado、幹事の推薦を終り Vespermanĝo に入り Sin-Prezento、Amuzado に興を供へた。

福高の dramo „Salome“ 其の他 S-ro. O. の赤垣源三、マンドリン、ハーモニカ福引等に打ち興じ 22 時半 Tagiĝo 合唱裡に閉會。

——個人消息——

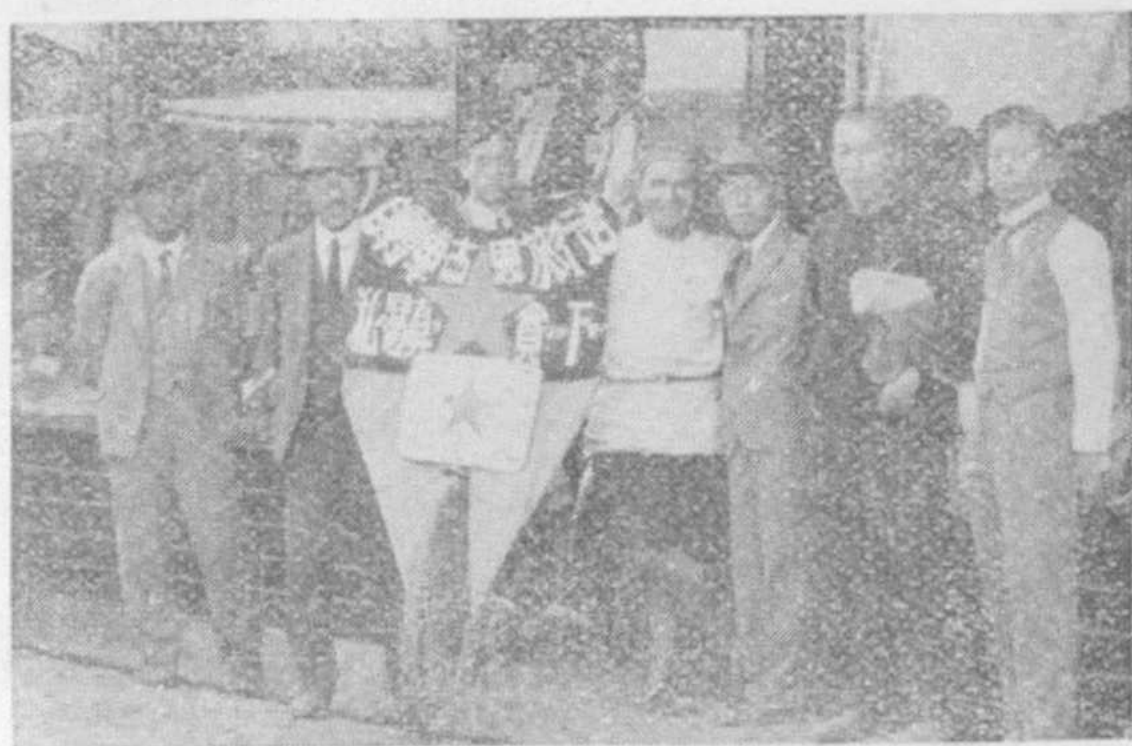
★名古屋山田弘氏より 商業視察を兼ねて Esp-isto 訪問の目的を以て十一月四日當市出發。大阪商船のアフリカ丸にて上海、臺灣に遊ぶ。門司、小倉、下關、上海、臺灣に於ては日支の Esp-isto に大變にお世話になり殊に上海ではペレル君に會ひ、臺灣南部の屏東驛では偶然 esp-isto に遇ひお互ひに旅行中の無事を祈り收穫ある旅行を了へて十九日歸着。

★名古屋西脇弘道氏は十一月初旬逝去された。

★大橋介二郎氏より 中華民國宜昌にて、11月10日發、上海にては多くの同志と語る充分の機を得ず、漢口にては大いに歓迎され Hankou-Esp-Asocio に二日逗留した。

„Mi nun estas sur la ŝipo al Tzunking (重慶) 1330 mejlojn malproksime de mariĝo de Tan Cu rivero, kaj nun estas atakanta de ruĝaj komunistoj, kiuj alpaŝas de bordo de tempo al tempo, sed ni estas en sendanĝero, ĉar japana militŝipo gardas nin kaj du aŭtopaŝilojn estas instaligitaj de japana mararmeo sur la ŝipo.

熊本の東氏は來春三月迄に Siberio, Germanujo 等を縁の旅を續け乍ら Ĉeĥoslovakujo に入り Praĥo-Universitato の日本語の教授として四月より開講される由。



Sro Perer en OGURA

長崎

11月24日初等講習終了につき20時より茶話會を催す。講師帆足氏の挨拶、富松氏俱樂部として祝辭を述べ植田教授一場の講演あり23時散、出席35名。★11月26日ブルガリヤの同志 Ilief 氏父娘連絡船にて上海へ。★11月30日東光書院長藤澤親雄氏上海より歸路俱樂部御訪問。★12月3日熊本醫大微生物學教室の寺尾三千春氏を同市に於ける U・E・A の delegito として推薦した。(長崎エス俱樂部)

Ilia daŭra pafado min kuraĝigas. En Tzunking kredeble min atentos kelkaj sam-noj. Mi venis Ĉinujon nur por vidi belajn pejzaĝojn sed krom tio nun mi ludas rolon de propagandisto de nia afero.“

K. Oohaŝi

〔大橋氏は十二月中旬無事歸朝〕

江東の Esperantistoj に檄す！

Esperanta Movado の盛んな今日、私は不幸にして、未だ本所、深川に organizo のあるを聞いてゐない。

江東には同志が居ないのか それ共黙々として一人で歩んでゐるのか だが一人歩きは危険ではなからうか 皆一緒に研究しやう。僕も granda movado に身を投じた許りだ。良き研究相手が欲しいんだ。

團結は力を生む。

江東の地にある我々は直に organizo を持たう。

深川区木場町一

關根正信

日活・帝キネ撮影所へ

Scherer, Slinger 兩氏と共に

十月廿七日、日活撮影所訪問、ユ社々長ラムレー氏の手紙に池永所長の署名を貰ひ、外務部の永田氏や阿部監督と撮影所のこゝについて詳しく話した。後千恵藏プロへ急ぐ。此處では「忠直卿行狀記」撮影中で暫く見物してゐた、山田五十鈴が十四歳だと聞かれて喫驚



シェラーと千恵藏



山田五十鈴とシェラー



スリンガーと千恵藏

し泣く場面を見て「何うして涙を出すか」と聞く、「日本女優は自然に泣くのが多い」と云ふ。「米國では薬ばかり使ふ」等と話した。

日活ではスチールを澤山貰ひそれから帝キネの撮影所を訪れた。此處でも山崎所長の署名を貰ひ撮影所の制度俳優等について詳しく聞きスチールを澤山貰つてセットへ廻り「與へられた武器」劇中劇のセットの前で記念撮影(前號所載)。

日活では阿部監督と英語で話し合つた以外英語を使つたのは挨拶位なもので兩氏ともエス語ばかりで用を足した。(エス語を宣傳するため世界を廻つてゐるのだと)と特に傳へ、昨年フレッドニブロとの記事が廿ヶ國百數種の新聞雑誌に轉載、記載されたことを話しエス語の有益なことを附加へた。(エス普及會西村保男氏記)

★ 大阪に於けるペレル君 ★

九月廿七日午後ペレルは京都から大阪へ來た、陽に焼けた赤顔の肩幅の廣いペレルが大きな手を差出した。所謂シベリヤ横斷のボロ自轉車に乗つてみないかと云ふ。

其の夜は小生方に泊めることにして風呂屋に連れて行つたが Varma akvo perfortas homan korpon, と云つて水ばかり浴びる。翌廿八日起きると午前中は libertempo を持ちたい、各新聞社への原稿と五日分の日記を書くのだと云ふ。正午少し前西宮の濱へ連れて行つて釣をすゝめるゝそんな暇つぶしはいやだと云つて濱に寝轉んで Sen-ulo を讀む。それが倦くと海に飛び込む中々うまい。

細田氏の好意で大阪の千壽堂で晚餐を御馳走になり十時頃までペレルが社會問題を論ずる。小西、藤間の兩君の好意で寫眞を五千枚印刷さす。大阪の交通量の多いのに傷害保險をつけたいと云ひだしたが結局だめ。

廿九日午後四時頃から大江橋、御堂筋、心齋橋とごんごん寫眞を賣つて歩く。賣上良好戎橋で policano に2時間も調べられる。人通りの多い道頓堀千日前で賣りたいとペレルは頻りにがん張つたが policano は絶體にゆるさない。

卅日朝眼覺し時計に起されて起床。Vi dormas kiel ĉevalo と小生をたゝき起す。此日も諸所で policano の注意を受け乍ら例の寫眞を賣り盡す。O. E. S. の美津濃食堂に於ける茶話會。その夜は小西氏宅。

十月一日夕方田村君と共に奈良に行く。同夜宮武氏宅。二日午前雨中を市立中學、天理外語訪問。數名の同志と共に春日神社、大佛拜觀。宮武氏方で夕食後歸阪。三日午後荷物をさゝのへ神戸に向け阪神國道を自轉車で走る。(大崎氏)

会 名	(會員數)	所 在 地	責 任 者
横 濱 エ ス 協 會	(50)	横濱市中區蒔田町 135	高 村 利 義
臺 北 エ ス 會	(35)	臺北市昭和町(會長杉木良)	武 上 耕 一
上 田 エ ス ・ ロ ン ド		上 田 市 横 町	飯 島 道 夫
長 野 エ ス 會		長 野 市 旭 町	乙 部 泉三郎
仙 臺 エ ス 會	(25)	仙臺市大窪谷地 87	菊 澤 季 生
白 濱 エ ス 會	(5)	兵庫縣飾磨郡白濱村甲 541	中 野 伊 作
【解散】 大阪オリエンタ・エス協會 兒 島 壯 一			
會名の變更、場所の移轉、責任者の移動等のあつた場合至急御知らせ下さい。			

開 催 エ ス 會	種 類	期 日	時 間	用 書	受 講 者	講 師
北海道・下富良野	初	11.12—21	毎日 1.5	希 望 社	44	岡田・中村
神戸消費組合	„	11.21→一ヶ月	月水金 2	初 讀	20	小田利三郎
長崎エス・クラブ	„	10.20—11.24	2	短 講	45	帆足雄三郎
大阪醫大エス會	„	10.8→	水 1	講 書	15	相 坂 信
二 高 エ ス 會	„	11.14—25	月火金 2	„	20	委 員
大牟田エス會	„	11.—2ヶ月	水 2	捷 徑	11	岡田啓基
仙 臺 エ ス 會	中	10.31—11.21	金 2	中 讀	4	小松文彦
„ (女子)	„	11.16—12.7	日火 2	講 書	4	堀田幹雄
„ (男子)	„	11.30→	日 2	骸 骨	5	輪 講
„	„	10.10→	土 2	Vivo de Z.	—	„

— 新 聞 雜 誌 —

- ★鶴岡日報—9月9・10日エスペラントについて。クズウラオ稿
- ★名古屋新聞—10月29日ラヂオの國際公用語について(言論)
- ★報知新聞(宮城版)—11月8日仙臺松島のフィルムを伊國首相ム氏にシエラー氏の手によつて贈る云々……
- ★東京堂月報十一月號—エスペラント部開設について
- ★藥業時報300號—11月2日 社告としてエス語講習設の事
- ★日本藥報—4の2・5・10・12・17・18・19.5の16
- ★藥業週報—979・981…983・1009 號
- ★藥日新報—268 號
- ★東京藥事新報號—918 號
- ★藥業時論—446 號
- ★藥業の友—391 號

— 彙 は が き —

- ★長崎のエス語入風景。一組八枚入 15 錢二種送料二組まで2錢
長崎市大澤通 佐藤弘開堂

- ★二見浦夫婦岩。五枚一組 送料共 10 錢。
宇治山田市大世古町中尾方 久保田長治

— 雜 —

- ★醬油瓶のレツテル。かなもじミエス語入り
茨城縣結城町 渡邊新太郎氏の企て。

或一部の R 字論者へ

近頃學會へ自分のところへよこす郵便物は R 字で表書きせよとの申出があつたので取扱者の立場を考へて愚見を述べてみよう。

郵便局員は目と手の機械的動作によつて仕事をさばいてゐるが、多數の郵便物の中の R 字書のものをさばくには今までと違つた目で見直されなければならないので其處に能力の減退がある。

封筒を書く場合一日に五百枚も千枚も書きなれてゐる者だからと云つて漢字書きのものゝ中から一枚 R 字書きするのはやつかい此上なしである。米の中の砂一粒にも似て。カナモジも此の點同罪である。

大方の御意見を得たし。(秋山栗郎)

全 國 初 等 講 習 會 概 括 (十二月號までの報 告を材料として)

地 方	開 催 数	受 講 者	地 方	開 催 数	受 講 者
關 東	26	811	東 北	6	120
近 畿	23	478	四 國	3	87
九 州	10	293	北 海 道	2	44
中 部	11	182	そ の 他	4	111
中 國	6	136	計	91	2,262

(之は正確な數字ではないかも知れない。)

★關東地方は湘南地方に勢力があり東部及北部は餘り振はない。幾分群馬縣に活氣がある。

★近畿地方は京、大阪を除いては三重縣の活躍は見るべきものがあり兵庫、滋賀が之に次ぐ。

★九州地方では北九州のみ非常な活氣を示して居るが熊本以南は之に反して火の消えた様だ。御奮闘がのぞましい。

★中部地方では名古屋を主位に置き金澤が之に次ぐ。概して北陸地方に活氣が漲つて來たが最近には瀬戸が勃興して來た。

★中國他方では内海方面が盛で日本海方面は松江に僅かな活氣がある。

★東北地方では太平洋方面即ち仙臺を第一位として青森、岩手に幾らかの振興を見、秋田、山形は一向に振はないが横手は活氣づく。

★四國地方では松山を揚げるのみで高知方面はれむつてゐる。

★北海道では函館、札幌に活氣があるのみ。

★その他朝鮮の勃興には目覺しいものがあり臺灣も臺北が近年ラジオ放送で盛な意氣を示して居る。

【以上で1930年度の全國初等講習會を一瞥したが初等講習會のみで中等科の講習を開かれる處が少ない爲受講者はそのまゝ立消えとなるものが多い。此の人達がせめて半分でも學會に入會されたならごんなにか力強いと思はざるを得ない。】

〔上下の表により必ずしも講習會の盛な地方でもそれほど會員が増して居らず、れむつて居る様な地方でも會員が増てゐるのは面白い。〕

學 會 々 員 數 近 況

縣/年	1929	1930	縣/年	1929	1930	縣/年	1929	1930	縣/年	1929	1930
東 京	616	559	富 山	28	18	福 島	19	12	岡 山	13	12
神 奈 川	93	104	(中部)	276	221	(東北)	65	57	廣 島	28	25
埼 玉	21	13	福 岡	129	98	京 都	108	77	山 口	19	16
群 馬	42	30	長 崎	97	94	大 阪	124	128	島 根	7	6
栃 木	7	11	佐 賀	11	3	三 重	20	27	鳥 取	7	5
茨 城	27	25	熊 本	16	19	和 歌 山	11	6	(中國)	74	64
千 葉	31	18	鹿 兒 島	11	7	奈 良	6	7	樺 太	5	3
(關東)	837	760	大 分	23	25	滋 賀	11	11	朝 鮮	40	44
靜 岡	23	23	宮 崎	16	15	兵 庫	70	69	臺 灣	26	37
愛 知	93	78	沖 縄	3	3	(近畿)	350	325	滿 洲	43	31
岐 阜	25	16	(九州)	306	274	高 知	8	15	北 海 道	92	81
新 潟	30	25	青 森	12	12	島 根	7	6	支 那	15	15
長 野	31	27	山 形	4	3	香 愛	7	5	そ の 他	31	45
山 梨	9	8	秋 田	11	9	(四國)	31	35	總計	2181	1992
石 川	22	17	岩 手	2	6						
福 井	6	9	宮 城	17	15						

編輯部より

~~~~~ 新編輯方針採用 ~~~~~

先年來から本誌 *Revue Orienta* の編輯は編輯部委員が毎月當番でやつてゐたがこの當番制も圓滑にゆかなくなつてきたので新しく本年から編輯會議を開いて學會全役員が之に出席して編輯上いろいろ意見をのべ毎月大體きまつた記事の擔當者がその席へ自分の擔當した記事を持参し且採用原稿につき決議することにきめた。

そして編輯會議は毎月第三火曜日に開き來々月の *Revue Orienta* 誌の編輯につき擬議する事にし11月第一回の會合をなし12月16日に第二回の會合をなしたがその経験から第三火曜よりも第二火曜として來月號の編輯をす

る方が好都合である事を認めたので相談の結果かく變更し一月からかくすることにした。

それで今年一月號からはこの編輯會議の決定によつて編輯したものである。編輯會議は出席者の多數決によつて各原稿の採用不採用につき *vaèdoni* をするのである。かくして採用原稿の決定した上はその決定に隨つて平澤 *Generala Sekretario* が印刷所へ送附の上校正その他の一切をされる事になつた。

編輯部宛御送附の日本語をエスペラント譯したものには必らず原文をそへて御送附下さい。

僕とエスペラント

僕は十歳です。今年の四月からお父さんにエスペラントをならひ始めました。いつも夕飯をたべた後は會話のれんしゅうをする事となつてゐます。僕がはじめて外國人さしやべつたのはベレールさんでした。何だかこはいやうに思はれ、よくおぼへてゐた言葉でも忘れた事もありました。その次にこられたのは符憐武さんでした。大へんやさしい人で、僕は日本人のやうに思へて、何だかしやべりやすいやうに思はれました。次はセラーさんとスリンガーさんでした。僕はその事を聞いてお父さんが病氣なので僕がむかひに行く事になりました。皆を待つてゐてもこられないので、僕は「我がはいのうで前を見せてやる」と言つて十五錢を持つて家をさび出しました。出る時は大きな事を言つて出たがさて何さしやべるのだか忘れた。僕は道に立どまつて考へ出しました。「そうだそうだ *koran bonvenon, sinjoro* だ」とやうやう思ひ出しました。「その次は何と言ふのだかなあ又忘れた。さ又考へ出しました」そうだそうだ次に言ふ言葉は忘れやすいから紙に書いて來た」今考へなくても大じようぶだと思つて歩き出した。僕が行くさまだ皆は見えなかつた。本人のセラーさんもまだ見えてはいなかつた。僕はしばらくかいさつ口でまつてゐたが汽車が着いたやうなので、大いそぎで切符を買つてブラットホームへ出た。僕の出ようがおそかつたのが、もう二人とも汽車からおりて、皆さしやべつておられた。僕はいつのまに皆が來られたのかはつきりさ、けんそうがつかなくかつた。僕はしやべらうと思つたが、どちら

が本當のセラーさんかわからない。まさか聞くわけにも行かないと僕はよく氣をつけて見てゐた。すると多く向ふの方の人に、しやべりに行かれるので、此の人だと決心して、その人のほたへ行つた。さあ、いよいよしやべるのだ。ちよつこはい、しかしあれだけ大きな事を言つて來たのだから、しやべらないわけにも行かない。さうさう決心して“*Koran bonvenon sinjoro Donu manon*”と言つてあくしゆをした。セラーさんも喜んで“*Donu manon*”と言ひながらあくしゆをしてくれた。僕は次を言はうと思つたが紙にかいてあるのでよこ目でポケットを見た。あつたあつたかいてある。僕は“*Anstataŭ mia patro koran bonvenon*”と言つた。そしたらセラーさんは“*Kie estas via patro?*”とたづねられた。僕は“*Mia patro estas malsana*”と答へた。もう一人の人はさても、デコの大きいんで。さても目の小さい人なので僕はへんてこな人だと思つた。だがつきあつてゐる中にこの人の方がやさしいやうに思はれた。二晩大津でまつて今朝立たれた。僕は立たれる前に大きな聲で二人に“*Ĝis la revido...*”と言つた。あのやうなやさしい人がもう一人來ないだらうか、と僕は立たれてから思つた。スリンガーさんは僕に「そのちようしなら、しょうらい立つばなエスペランティストになれるからがんばつてやれ」と言つてくれた。僕も大きくなつたらあのやうに、世界の地をふむ人間になりたいと思ふ。 さよなら

十二月十七日 中大路 淳
日本エスペラント學會
岡本好次先生

城戸崎益敏編

エスペラント文例集

訂正特價版出づ！

特價壹圓 (送料6錢)

abomeni ~a

1) -o 2) -(ind) a

- ① Mi abomenas tian aferon.
- ② Li sentis abomenon kontraŭ si mem.
- ③ Ho, kiel bestaj kaj abomenindaj aperas ĉiuj agoj de la mondo!
- ④ Ĉiu abomenaĵo havas sian adoranton.

嫌悪する, 嫌ふ

1) 嫌悪 1) いやらしい

- ① 私はそんな事は嫌ひだ。
- ② 彼は自分自身に愛想をつかした。
- ③ まあ何さ地上一切の行爲のあさましく、いやらしく思はれることよ!
- ④ 蓼喰ふ蟲も好きずき。

さきに「エスペラント単語カード」と同内容の冊子「エスペラント文例集」を印刷頒布せし所かゝる参考書乏しき折柄大方の歓迎を受け賣盡したる今日尙再版の希望者多ければ再版を特價版となし犠牲的廉價を以てエスペラント愛好者諸君に提供せんぞす。

★語 數…は動詞・形容詞・助辭中より重要なる 720 語を撰び、合成語約 3000、文例約 2800 を蔵す。

★訂 正…第一版に於ける誤植・拙譯其他を約 250 箇所にわたりて訂正をなす。

★版……は四六倍版の大冊にて携帶不便なりしを以て國際版(菊版より少し短い)に改む。

★一 頁…五語を改め四語となし従つて頁數 125 頁は 180 頁となる。

★印刷…は従前通り朱梓入の美麗なる二度刷。

★表 紙…上質二度刷。

★定 價…1 圓 70 錢を 1 圓となす。

—— {第一版「文例集、単語カード」正誤表} ——
{御入用の方は御一報次第進呈します。}

財團 日本エスペラント學會
法人

東京市牛込區新小川町 3 の 15

(電話牛込(34) 5415 番)
(振替口座東京 11325 番)

學會取次洋書目錄

★洋書は如何なる場合でも前金注文でなければお送り致しません★

—— 洋書の値段は毎月變動があります ——

…… 此處に無いのでも在庫してある物もありますから

御希望の書物は往復葉書で御照會下さい ……

【新 再 着 書】

定價圓(送料錢)

- ★Pinokjo. 童話ピノチヨのエス譯、挿畫多數入初歩好適讀物……上 2.50(6) 並 1.80(6)
- ★Esperanto-Lernolibro por popollernejoj. 11月號新刊紹介のもの、美しい色刷の挿畫カット多數入、會話、物語、一口嚙で充たされてある rekta metodo の講習會に好適・1.00(4)
- ★Esperanto Literature. 英語で書かれた Esp. 文學論、Esp. 文學を知るに身い手引……0.25(2)
- ★Por Recenzo. 現代英國知識階級の生活を書く、行文流麗……上 1.25(6) 並 0.85(2)
- ★Fera Kalukanumo. ジャツ、クロンドンの彪大な長篇物、アメリカの社會生活を扱ふ……1.25(8)
- ★Se Grenereto. 近代短篇 15 篇許り集めたもの……豪華版 3.00(6)
- ★Kompleta Gramatiko kaj vortfarado de Esp. 本書の廣告一度出するや注文殺到し第一回着

- 荷は忽に賣切れ、今回第二回多數着荷、全同志の座右に一本を備へられん事を……2.10(6)
- ★Gajoj horoj por Esperantistoj. なぞ、しやれ、笑話で満されてゐる、講習會、會話會をにぎやかすには此一冊で充分……3.00(2)
- ★Internacia Krestomatio. Kabe 博士の編になるもの、絶版殘部僅少……1.25(4)
- ★Legendoj. A. Niemojewski 現在の Internacia Mondliteraturo にあるものの初版で 12 篇を収む……1.20(4)
- ★Novaj Versaĵoj. 露西亞の詩聖 Lermontov の詩集 Bela Manto 譯……0.60(4)
- ★Estu Homo! C. Wagne の倫理學教科書……0.45(4)
- ★Al Torento, 都會にあこがれる田舎青年の戀愛物語、原作小説……0.72(4)

ザメンホフ博士譯著書

- ★Eundamento de Esperanto. ……0.55(4)
- ★Fundamento Krestomatio. Esp. 模範文集。……1.30(8)
- ★Aldono al la dua libro de lingvo internacia. 世界で最初にエスペラント語で出た本の複製品……0.25(2)
- ★Rabeno de Baĥaraĥ. ハイネの小説と Šalom Alejhem の Gimnaziano ……0.45(4)
- ★La Rabistoj. 獨文豪シルレルの劇、ザ博士晩年の老熟の筆……0.80(4)
- ★La Revizoro. 露文豪ゴーゴリの喜劇譯筆輕妙眞に喜劇中の白眉……0.70(4)
- ★Ifigenio en Taŭrido. ゲーテの傑作、第四回萬國大會で上演せるもの……0.70(4)
- ★La Batalo de l' Vivo. 英文豪 Dickens 作の humorplena な小説ザ博士の筆蹟あり……0.55(4)

- ★Andersen Fabeloj I 及 II. おなじみの丁抹アンデルセンのお伽噺……各 0.80(4)
- ★Marta. 波蘭閨秀作家 Orzeszko の小説最近には映畫化された……1.30(6)
- ★Rakontoj el Biblio. 聖書物語……0.30(2)
- ★Lingvaj Respondoj. ザ博士のなした質疑應答を集めたもの……0.55(4)
- ★Proverbaro Esperanta. 世界の粹を集めたエス語諺集……0.70(4)
- ★Georgo Dandin. 世界的喜劇作者モリエールの傑作……0.45(4)
- ★Originala Verkaro. ザメンホフ博士の諸種の雜誌へ寄稿した物、萬國大會での演説、諸方へ出した手紙、詩歌の大集成眞にザ博士を愛するものは讀め……7.50 内地(27) 植民地(55)
- ★Predikanto. 聖書の中の一章……0.10(2)
- ★Eliro. 聖書の内出埃記……0.30(2)
- ★Levidoj. 聖書の内レビ記……0.30(2)


~~~~~ 小

- ★Saltego trans jarmiloj. 原作界の麒麟兒  
Jean Forge の傑作, 奇想天外 .....2.85 (8)
- ★Abismoj. 構想の奇, 描寫の妙, 行文の輕  
Jean Forge 出色の傑作。 .....  
..... 上製 2.30 (6), 並 1.55 (4)
- ★Palaco de Dargero. 妖艶 Pompadour 夫人  
の戀愛葛藤.....Payson 氏譯——贅譯本。.....  
..... 3.10 (6)
- ★Stranga Heredajo. Luyken の大作, 興味津  
々人物躍動。 .....2.85 (8)
- ★Reĝlando de rozoj. A. Honssaye 作の美しく  
い夢の様な物語、譯は P. Champion. 0.20 (2)
- ★Tri angloj alilande. 英國三人男海外旅行奇  
談抱腹絶倒 .....0.55 (2)
- ★Ruĝa stelo. SAT 發行 .....0.80 (4)
- ★Vera Historio de Ab Q. 珍らしい支那の翻譯  
もの、.....上製 1.00 (4) 並 0.80 (4)
- ★La vila mano. エスペラント原作界の大家  
Bulthuis の作和蘭國民の生活を題材とし詩の  
如き名文 .....上製 .....3.30 (15)
- ★Sivaĝi. 17 世紀の印度の王様の物語筆者は  
印度の若きエスペランティスト .....0.85 (4)
- ★Kio povas okazi, se oni dancas surprize.  
Fritz Reuter の小説、繪入 .....0.20 (2)
- ★Bulgara Antologio. ブルガリアの名作詩、  
散文集、作者の寫眞入 .....1.50 (6)
- ★Idoj de Orfeo. おなじみの H. J. Bulthuis

~~~~~ 詩

- ★Atta Troll. 獨逸の詩聖ハイネの長篇詩、譯
者は Zanoni0.80 (2)
- ★Garbo. ブルガリアの Asen Grigorov の原
作詩0.20 (2)

~~~~~ 戲

- ★Barbra. 英文壇に名をあげた Jerom k.  
Jerome 作の一幕劇 .....0.55 (2)
- ★Nevo Kiel onklo. 獨文豪 Schiller 作三幕喜  
劇 Ch. Stewart 譯 .....0.20 (2)
- ★Hundo parolanta. 道樂息子の遊學修業、親  
から金を巻取つた罰は? 喜劇 .....0.25 (2)
- ★Rompantoj. Valjes がパロモロナの萬國大

~~~~~ 說

- の原作2.30 (12)
- ★Pro Iŝtar. 處はアラビヤ, 時は紀元前 Luy-
ken 力作の大衆文藝。3.65 (8)
- ★Aventuro de Kalifo Harun Alraŝid. アラビア
夜話よりの一篇 C x 將軍譯0.15 (2)
- ★Fatala Ŝuldo. 過去を通視する不思議な婦
人の力、因果律の巧なる小説化1.10 (8)
- ★Aventuroj de Lasta Abenceraĝo. Gravado 王
朝亡明時代の物語0.15 (2)
- ★Bengalaj fabeloj. 好評だつた Sivaĝi の作
者の第二回作品0.55 (2)
- ★Janulino el Stomyr. スエーデンの農村の
物語詳細は九月號の新刊紹介0.85 (4)
- ★Viktimoj. Julio Baghy の原作、八月新刊
紹介の物愈々到着2.50 (4)
- ★Rompantoj. Valjes の Monologo 五篇を輯
む、身振の寫眞入0.35 (2)
- ★En Okcidento nenio nova. 世界の讀書界を
風靡した「西部戦線異状なし」エス譯
..... 上製 3.50 (10) 並製 2.50 (6)
- ★Ribelemaj virinoj. 昔の支那婦人の悲惨な生
活を物語る史劇0.25 (2)
- ★Du majstro-noveloj. 曾て Heroldo de Esp.
に連載されて好評を博した Storm の小説二
篇上製 2.10 (6) 並製 1.25 (4)
- ★Hodinka. トルストイ作寫眞入 ...0.30 (2)

~~~~~ 集

- ★Tajdo. エス文壇知名の N. Hohlov の詩  
集、心の高調を詠じたる四十篇 .....0.65 (2)
- ★Krioj de P' Koro. 雄辯界の一人者 Gren-  
kamp が青春の詩集 .....0.15 (2)

~~~~~ 曲

- 會で自演して好評を博した獨白五篇 0.35 (2)
- ★Amfitriono. Morière 作の喜劇、あごをは
すさぬ御用心0.55 (2)
- ★Internacia Kantaro. 世界各國あらゆる國々
の有名なる歌のエス譯。
..... muzika eldono 2.30 (6)
..... tekstaro 0.80 (2)


~~~~~ 學 習 用 書 ~~~~~

- ★Esperanto per instruaj bildoj. ホテル郵便局、停車場、男女服装の部分品等實地教授式 20×26 cm. の大版 .....1.90 (6)
- ★Supera Kurso de Esp. 高等エスペラント教科書として評判の言語委員 D-ro Dreher の著 .....0.55 (2)
- ★Franca gramatiko. エスペラント書きのフランス語文法教科書 .....0.35 (4)
- ★Oficiata Klasika Libro .....0.40 (2)
- ★Millidge. エス英辭典 .....4.40 (6)
- ★Unua legolibro. D-ro Kabe 著讀本、小説、小話會話日用文を収む初學者必携 .....0.70 (4)
- ★Kursalernolibro. Ed. Privat 著、久しく絶版になつてゐたもの、再版出す、講習會用好適 .....0.40 (2)
- ★同 さく引付 .....5.80 (8)
- ★Bennemann エス獨辭典 .....2.10 (4)
- ★Bennemann 獨エス辭典 .....4.35 (8)
- ★Christaller: Esperanto .....0.55 (4)
- ★Ekzercilo por supera praktika kurso de Esp. 會話を主としたもの中等講習に好適 .....0.45 (2)
- ★Christaller 獨エス辭典 .....6.50 (8)
- ★Rhodes 英エス辭典 .....2.10 (12)
- ★Petit Cours Primaire .....0.30 (4)
- ★Maupin 佛エス辭典 .....1.80 (8)
- ★Vortaro de Esp, Kabe .....0.90 (8)
- ★Zamenhof-Radikaro. Zamenhofaj Radikoj に関する最新にして最も科學的な研究。Zamenhof の著作全部を研究せるもの。3.10 (4)
- ★Kompleta Gramatiko. 御待ち兼ねの本書愈々多數着荷。 .....2.10 (8)

~~~~~ 科學社會宗教其他 ~~~~~

- ★Evoluo de Telefonio. 電話器の發達に就て挿畫入0.55 (2)
- ★Laborcarto.0.12 (2)
- ★La Bulgara lando kaj popolo. Krestanoff 著 Bulgarujo の歴史、風俗、國情等を語る1.20 (2)
- ★Evangelio de Horo. 赤い聖書0.08 (2)
- ★Elementoj de fotografa optiko. 寫眞術用初等光學、多數圖入0.35 (2)
- ★Monadologio de Leibniz. ライプニッツの單元論、譯は故學士院長 Boirac 博士0.10 (2)
- ★Sendaĝereco de Francujo. 歐羅巴の平和に就て佛蘭西前大統領 Honnorat 氏の言0.55 (4)
- ★Etiko. クロボトキンの「倫理學」SAT 發行1.00 (6)
- ★ABC de Sennaciismo. Sennaciismo の入門書0.30 (2)
- ★For la neŭtralismon.0.18 (2)
- ★Historio de Esperanto. Ed. Privat 著、二卷に分れ Esp.-movado の歴史を詳説す。Esp-isto 必讀の書。上卷 1.30 (4), 下卷 3.10 (6)
- ★Vendreda Klubo. Dietterle 博士の編纂になり W. Lippmann の Lingvaj Respondej de Zamenhof に関する意見其他1.25 (4)
- ★El la intima libro de Verdurbaj Esp-istoj. Ada 氏等ブルガリアエスペラントイストの隨筆集0.30 (2)
- ★Ni legu.0.50 (2)
- ★Naciismo.0.65 (4)
- ★Proletaria Kantaro.1.25 (4)
- ★Krimnologio. 犯罪小説好きの邦人必ずや讀むべき眞面目な犯罪學の講義0.85 (2)
- ★Vojo al scienco de estonteco.0.30 (2)
- ★Vojo de formiĝo kaj disvastiĝo de lingvo internacia.0.35 (2)
- ★Aŭstralio. オーストラリア風土記、多數の寫眞地圖入の贅澤本3.40 (6)
- ★Nur volu!0.35 (2)
- ★Je la nomo de l' vivo { 上 1.25 (4)
並 1.00 (4)
- ★Inicado Matematika0.35 (2)
- ★Analitika Geometrio Absoluta. 科學書少きエス界に輝く幾何詳解二部よりなる二冊で 4.60 (12)
- ★Kiel akiri bonan stilon. エス文上達法知名の作家 Zanoni の一家言0.03 (2)
- ★Naŭlvgva Etimologia Leksikono. エス英佛獨等九箇國語對照語源字典2.00 (6)
- ★Esp. Grammer and Comentary1.90 (6)
- ★Millidge エス英辭典4.40 (6)
- ★Vortoj de Cart. エスペラント學士院長 Cart 教授の論說全集、勁拔模範の筆致、尙 Zamenhof-ago を記念する爲同教授署名付のもあります。部數僅少故御希望の方は至急。書留送料共 1.66署名なし 1.10 (6)

萬國エス大會出席と各國のエスペラント同志
訪問が唯一の目的の 歐羅巴行脚の先鞭をつけ
た快男兒林好美君の愉快な旅行記がでた！

歐羅巴親類巡り

(日本文)

林好美氏著 長崎醫大教授 淺田博士序 定價95錢 稅8錢
四六判340頁 寫眞版 60個及地圖(アート紙印刷)入
表紙——綠星色クロス美麗

世界中を歩き廻るのにエスペラント語だけ
では不自由ではないか？淋しくはないか？
心細くはないか？

さういふ質問は我々が耳にタコのできる程聞かされてきたキマリ文句だ。我々はその度毎に意氣浩然と答へた。「我々の同志は全世界の隅々に散ばつてゐる。我々は毎日これらの同志と手紙のやりとりをしてゐる。我々同志間の友情は絶大である。我々同志は未知のものと雖も一度國境をこえて相會する時には十年の知己の如くになる。感激の嬉し涙を流しあつてよろこびあふのだ。淋しいどころかこれ程氣丈夫なことはないよ。眞の心の友が獲られなければその國の言葉に精通してゐても心細いことこの上なしさ。」と。

世界を跨にかけた事のない我々がこういつた口幅つたい斷言をしても議論好な對手を納得させられるだろうか。併しこれ迄は對手を首肯させるだけの材料がなかつたからさういふより外なかつた。

本書の出現した今は事情は一變した。我々は千言萬語を盡くすよりも無言の儘本書一卷を手渡して靜かにこういへばよい、「君よ、君の疑問は本書がといてくれるよ」と。

エスペラントの偉大を感じエスペラントの友を尋ねる以外に何の目的をも持たず右手に旅行鞆左手にカメラを携へて飄然歐羅巴を廻つてきた林君の旅行記がでた。獨逸に手紙の友を訪れアントワープに萬國の同志と握手し英國にエス宣傳行脚を試みた愉快な旅日記である。しかも文章輕妙にして隨所に各地の人情奇習を探ることを忘れなかつた著者の筆は一讀巻をおかざらしめる程の興味津々たるものである。

著者の言葉 ……120日に亘る旅行中自分でホテルに泊つたのは唯の6晩に過ぎません各地にある親類以上の親友は争つてまで私を泊めてくれました。今當時の日記を顧みますにどの一日も感激でないものはありません。歡喜でないものはありません。どの一頁もあまりに幸福過ぎます。あまりに有難過ぎます。

一人で甘い汁を吸つてをいて黙つて居るのは利己主義だ。こんな誹を受けても私は辭まれません。今回この愉快感激の日誌の粹を集めて「歐羅巴親類巡り」なる名のもとに出版する所以はそこにあります。……』

東京牛込
新小川町

財團
法人

日本エスペラント學會發行

振替口座
東京11325番

本邦で出版の學會取次書其他目錄 (註文は前)(學會の振替口座は) (金に限る) (東京 11325 番)

| 價目 送料 | 價目 送料 |
|---|---|
| ★ザ博士演説集(カニヤ版).....0.80 .4 | ★大成和エス辭典.....4.80.18 |
| ★夜の空の星の如く(同上和譯).....0.80 .6 | ★模範エス會話.....1.20 .4 |
| ★ザ博士演説集(佐々城氏編).....0.30 .2 | ★寡婦マルタ(改造文庫).....0.30 .4 |
| ★我國における外國語問題とエス語.....0.60 .4 | ★カルロ(四方堂版).....0.20 .2 |
| ★心の片隅.....0.50 .2 | ★ザメンホフ(ドレーゼン)梶氏和譯.....0.85 .6 |
| ★詩集花束.....0.80 .4 | ★悲惨のどん底 黒川氏和譯.....0.80 .6 |
| ★緑の星に憧れて.....1.20 .8 | ★嬰兒殺し(山本有三).....0.30 .2 |
| ★新覺王(エス文).....0.30 .2 | ★父歸る(菊地寛).....0.30 .2 |
| ★惡夢(エス文).....0.20 .2 | |
| ◆日本語エスペラント小辭典(三高)[普及版]((値下)).....0.50 .2 | |
| ◆模範エスペラント獨習(秋田、小坂共著)[普及版].....1.00 .8 | |
| ◆日・エス・支・英 會話と辭書.....[普及版] 0.65 .6 [上製] 0.85 .6 | |
| ◆エスペラント絹ハンケチ(高級刺繡)..... | 終星光下の地球、旭昇る富士山の二種あり。
(男女別申出の事) 各1枚75錢送料各2錢 |
| ★エス・羅・日・獨・英・佛 藥品名彙(南江堂版)(見本は東京市本郷區春木町南江堂へ) 醫藥學エスペランティスト必携.....1.50 .6 | |
| ★グ ラ シ ャ 史劇 藤澤古雪原作 畑、村上共譯..... | 價 20 錢
税 2 錢 |

第拾回日本エスペラント學會正維持員芳名發表

| | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 陳 永 銘 | 大 島 秀 夫 | 藤 間 常太郎 | 岩 崎 温 |
| 河 邑 光 城 | 田 中 忠 芳 | 伊 藤 貞 治 | 石 井 榮 一 |
| 瀬 頭 謙次郎 | 和 泉 誠 一 | 岸 勝 一 | 小 山 左 右 |
| 楠 田 秀 德 | 魚 谷 勘 藏 | 佐 藤 忠 孝 | |
| 菅 巖 | 植 田 秀 雄 | 木 戸 又 次 | 新賛助員 |
| 辻 榮 | 田 中 正 美 | 村 上 孝 子 | 大橋隆太郎 |
| 竹 田 平 一 | 木 下 勇 男 | 馬 場 源八郎 | 馬 場 清 彦 |
| 平 野 子 平 | 山 崎 景 泰 | 田 中 己之助 | |
| | 大和田 ひな子 | 須 藤 實 | |

外務省事務官 神吉正一 序 法學士 金井博治 編

改正定價九拾錢

送料二錢



◇四六半截◇

百八十八頁

クロス上製

◇手頃にして内容豊富便利にして實用的なる小辭典として次第次第に根強き歡迎を受けつつあり。

(1) 本辭典收むる所日本語一萬一千。(2) エス語は文法簡短なれば單語を知る事に依り問題解決す。(3) 本辭典は大部の和英和獨辭典に比敵す。

【取次書店】東京 堂——栗田書店

東京市外野方町新井 未 來 社 振替東京六七〇九番

東京牛込財團 日本エスペラント學會 振替口座
新小川町法人 東京11325番

財團 法人 日本エスペラント學會發行圖書其他

| | | 開 | 送 |
|----------------|----------------------|------|---|
| エスペラント捷徑 | 最新最良の獨習書…………… | 1.00 | 6 |
| エスペラント講座 | 外國語を知らぬ人の獨習講義録…………… | 0.50 | 4 |
| 新撰エス和解辭典 | 語數一萬五千餘、譯…………… | 0.60 | 2 |
| | 語正確、索出至便…………… | 0.80 | 2 |
| エスペラント講習用書 | 文法教科書と讀本をかね…………… | 0.35 | 2 |
| エスペラント短期講習書 | 大きな活字で要領よく編輯した…………… | 0.20 | 2 |
| エスペラント初等讀本 | 挿繪入程度低く小中學生にも適す…………… | 0.30 | 2 |
| エスペラント中等讀本 | 興味深き讀み物數十篇を収む…………… | 0.30 | 2 |
| エスペラント發音研究 | エス語發音上の疑問を氷解す…………… | 0.30 | 4 |
| 點字エスペラント文法・小辭典 | 盲人用獨習書兼字引…………… | 1.00 | 6 |
| エスペラントやさしい讀み物 | 笑話廿二篇を對譯詳註し興味横溢…………… | 0.10 | 2 |
| 愛の人ザメンホフ | エス語創案者ザ博士の傳記…………… | 0.80 | 6 |
| リングヴィ・レスポンドイ | ザ博士の言語上の解答を蒐む…………… | 0.50 | 4 |

~~~~~ エスペラント對譯詳註叢書 ~~~~~

|              |                         |      |   |
|--------------|-------------------------|------|---|
| 1. マテオ・フアルコネ | 「カルメン」の作者メリメエの名篇……………   | 0.35 | 2 |
| 2. ハイネ詩集     | 情熱詩人ハイネの詩數十篇……………       | 0.40 | 2 |
| 3. 魔法使       | ザイデルの爐邊物語中の一篇……………      | 0.40 | 2 |
| 4. 代理通譯      | 一幕物抱腹絶倒さす程の大滑稽劇……………    | 0.40 | 2 |
| 5. 愛ある處神あり   | 杜翁の短篇。附録「エス學習書籍解題」…………… | 1.50 | 6 |
| 6. レイモント短篇集  | 「農民」で有名な波蘭文豪レ氏の短篇……………  | 0.40 | 2 |

~~~~~ エスペラント書き日本叢書 ~~~~~

| | | | |
|--------------|--------------------|------|---|
| 1. 骸骨の舞跳 | 秋田雨雀戯曲三篇…………… | 0.40 | 2 |
| 2. 倫敦塔 | 夏目漱石原作 西博士エス譯…………… | 0.15 | 2 |
| 3. 惜しみなく愛は奪ふ | 有島武郎原作 東宮氏エス譯…………… | 植字中 | |
| 4. 日本民族の起源 | 時枝誠之論文 平岡氏エス譯…………… | 0.10 | 2 |

| | | | |
|-------------|---------------------------------|------|------------|
| エスペラント單語カード | 七百二十語に一々用例を示す…………… | 1.70 | 12 |
| エスペラント文例集 | カードと同一内容の本…………… | 1.70 | 8 |
| エス演說會話レコード | 小坂氏吹込兩面…………… | 1.20 | 40 (内地外65) |
| エスペラント便箋 | 正百枚一冊…………… | 0.20 | 4 |
| エスペラント封緘紙 | 八十枚入一袋…………… | 0.20 | 2 |
| エスペラント手拭 | 三越特製上等…………… | 0.20 | 2 |
| 日本風景風俗エハガキ | 四枚一組三色刷エス説明入…………… | 0.10 | 2 |
| 緑星章 | 甲種(安全ピン止) 乙種(背廣用) 各 (送料共)…………… | 0.30 | - |
| | 丙種(安全ピン止特製) 丁種(背廣用特製) 各…………… | 0.50 | 6 |
| 緑星カフスボタン | (箱入一組)…………… | 1.20 | 6 |
| 緑星旗 | 紙製緑地に白く「エスペラント」を抜く。十枚(郵税共)…………… | 0.15 | - |

| | | |
|------------|------------|--|
| [無代
進呈] | 『宣傳の葉』 | { 百枚以下無料 (但送料卅枚毎に四錢)
百枚以上百枚毎に實費送料共六十五錢 |
| | 『宣傳のチラシビラ』 | { 三百枚以下無料 (但送料百枚毎に二錢)
三百枚以上は百枚毎に實費送料共十錢 |

La Revuo Orienta—Monata Organo de Japana Esperanto-Instituto,
Ŝin'ogaŭamaĉi III-15, Uŝigome, TOKIO, Japanujo; abono internacia 7 svis. frankoj.

我國に於けるエスペラント普及・研究・實用の中心機關

財團 日本エスペラント學會

東京市牛込區新小川町三の十五

—【電話牛込(34) 5415番—振替口座東京11325番】—

- 目的** エスペラントの普及、研究、實用
- 事業** (a) エスペラントに關する各種の研究調査及其發表
(b) 雜誌及圖書の刊行等
(c) 講演會、講習會の開催及後援
(d) 其他本會の目的を達成するに必要と認むる事業
- 會費** (a) 普通維持員 年額2圓40錢 (b) 正維持員 年額3圓
(c) 贊助維持員 年額5圓 (d) 特別維持員 年額10圓以上
(e) 終身維持員 一時金100圓以上
- 入會手續** { 住所、職業、姓名(振カナ付)を明記し會費一年分を支拂へばよい。(振替送金最も安全)
- 維持員の特典** { 1. 毎月研究雜誌“La Revuo Orienta”の配布をうく
2. 出版圖書の割引をうくることあり
3. 語學上の質疑其他一般の問合の返事をうく
4. 宣傳の「葉」その他宣傳材料を無料でうくることを得

詳しいことは直接お問合せ下さい

役員名簿 (五十音順)

| | | | | | | | |
|-----|--------|-------|----|------|-------|----|-------|
| 理事長 | 高層氣象臺長 | 大石和三郎 | 理事 | 文 博 | 高楠順次郎 | 理事 | 大 井 學 |
| 理事 | | 秋田雨雀 | 同 | 東朝部長 | 土岐善麿 | 同 | 三石五六 |
| 同 | | 上野孝男 | 同 | 醫 博 | 西 成甫 | 監事 | 清水勝雄 |
| 同 | 女大教授 | 河崎なつ | 同 | | 美野田琢磨 | 同 | 井上萬壽藏 |
| 同 | 中大教授 | 川原次吉郎 | 同 | 醫 博 | 望月周三郎 | 顧問 | 穂積重遠 |
| 同 | 文 博 | 黑板勝美 | 同 | 東朝顧問 | 柳田國男 | 同 | 子 爵 |
| 同 | 専大教授 | 小林鐵太郎 | 同 | 鐵道技師 | 小坂狷二 | | 三島章道 |

本誌購讀料 (郵税別)

| | | |
|-----|--------|------------------|
| 一 部 | 圓 0.20 | 學會維持員には
無代頒布す |
| 半年分 | 圓 1.20 | |
| 一年分 | 圓 2.40 | |

| | |
|--------------|---|
| 本會振替
口座番號 | { 一 般 { 東 京 11325 番
會計用 { 長 野 3283 番
基本金專 用東京 32089 番 |
|--------------|---|

昭和五年十二月二十五日印刷
昭和六年一月一日發行

編輯兼
發行人

印刷人

發行所

東京市牛込區新小川町三ノ一五
大 井 學

東京市神田區三崎町三ノ一四六
高 見 澤 保 芳
(一 国 印 刷 所)

東京市牛込區新小川町三ノ一五
財團 日本エスペラント學會
法人

昭和六年一月一日發行 (毎月一圓一日發行)
エスペラント研究雜誌「ラ・レヴ・オ・オリエンタ」第十二年第一號

定價貳拾錢 (送料貳錢)